

## 第二中学校：耐力度調査票の総括[No.1]

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
①	R C 造	3	S 44 . 4	54 年	A 100 点 健全度	A × B × C  3,999 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 43 点	
校 舎	2,019 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
②	R C 造	3	S 44 . 4	54 年	A 92 点 健全度	A × B × C  3,679 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 43 点	
校 舎	186 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
③-1	R C 造	3	S 43 . 8	55 年	A 100 点 健全度	A × B × C  3,999 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 43 点	
校 舎	1,227 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
③-2	R C 造	3	S 45 . 3	53 年	A 100 点 健全度	A × B × C  3,906 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 42 点	
校 舎	1,204 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑧	木造	1	S 46 . 8	52 年	A 84 点 健全度	A × B × C  4,453 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 57 点	
校 舎	73 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑩-1	R C 造	3	S 51 . 1	48 年	A 100 点 健全度	A × B × C  4,092 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 44 点	
校 舎	689 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑩-2	R C 造	3	S 53 . 3	45 年	A 100 点 健全度	A × B × C  4,092 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 44 点	
校 舎	535 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑩-3	木造	1	S 51 . 1	48 年	A — 健全度	A × B × C  —
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B —	
校 舎	6 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件 C —	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑪	S 造	1	S 51 . 1	48 年	A 100 点 健全度	A × B × C  5,580 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 60 点	
校 舎	332 m <sup>2</sup>		無	H23年 地震補強	立地条件 C 0.93 点	

## 第二中学校：耐力度調査票の総括[No.2]

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑫	S 造	1	S 54 . 3	44 年	A 45 点 健全度	A × B × C  2,846 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 68 点	
校 舎	78 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件	
					C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑬-1	S 造	1	S 54 . 3	44 年	A 69 点 健全度	A × B × C  3,594 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 56 点	
校 舎	79 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件	
					C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑬-2	S 造	1	S 54 . 3	44 年	A 70 点 健全度	A × B × C  3,320 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 51 点	
校 舎	36 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件	
					C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑯	木造	2	S 60 . 3	38 年	A 71 点 健全度	A × B × C  4,952 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 75 点	
校 舎	116 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件	
					C 0.93 点	

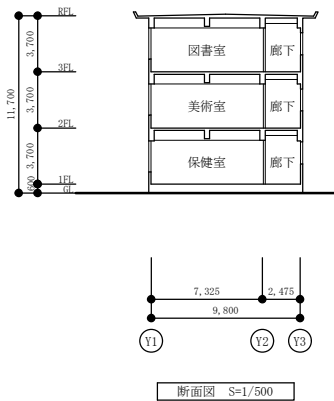
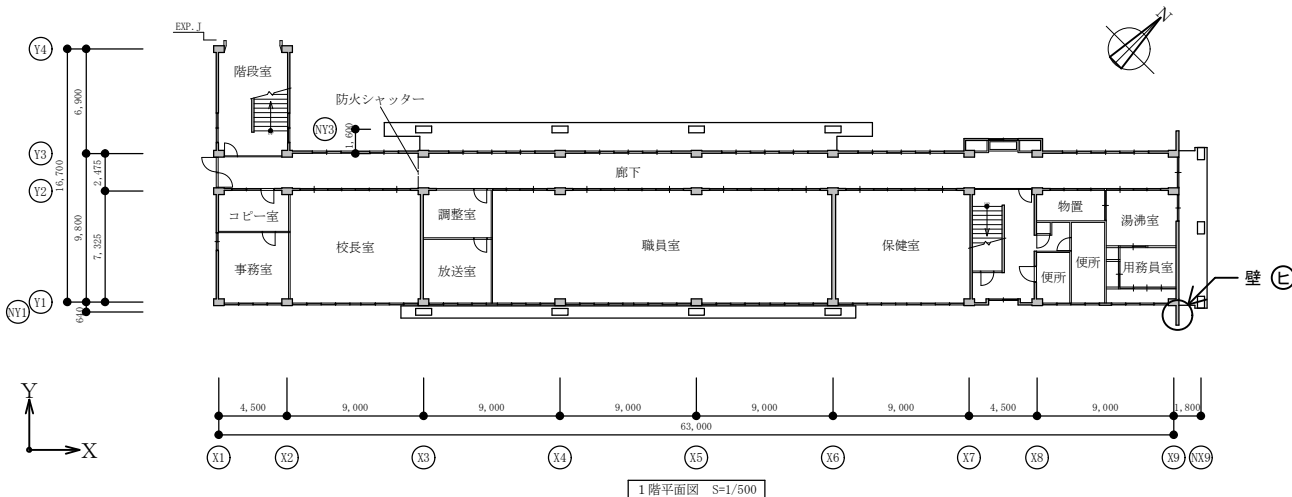
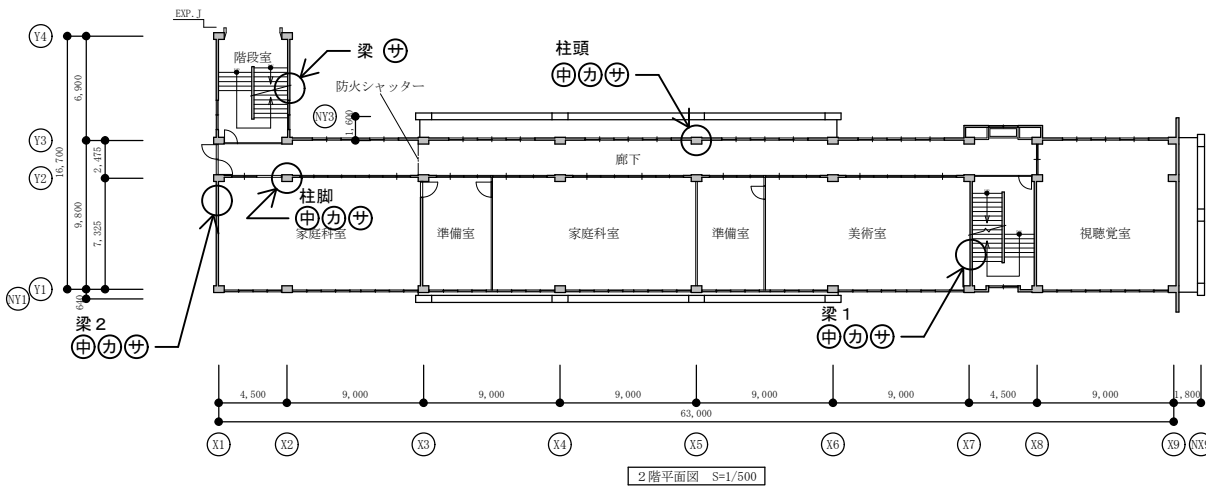
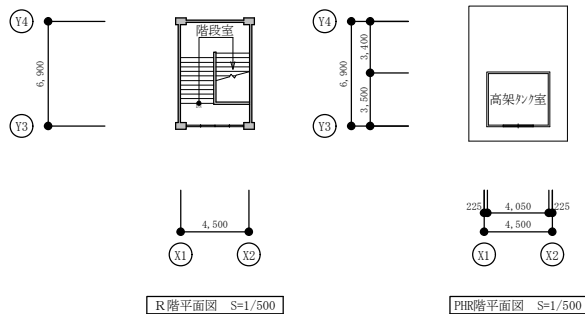
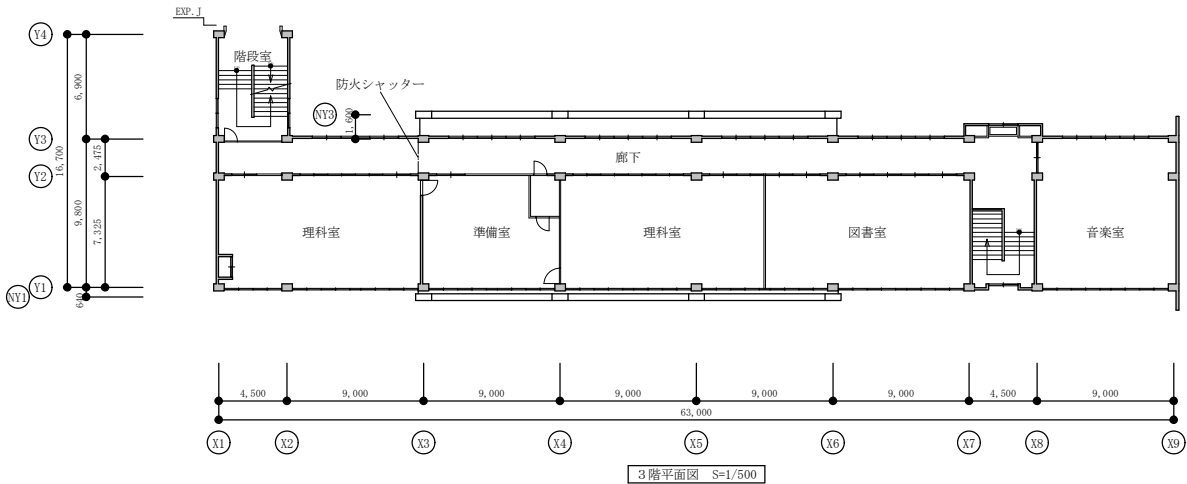
棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
⑳	S 造	1	H 6 . 3	29 年	A 100 点 健全度	A × B × C  7,626 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 82 点	
屋内運動場	450 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件	
					C 0.93 点	

棟番号	構造	階数	建築年	経過年数	構造耐力	耐力度
㉑	S 造	1	H 9 . 3	26 年	A 100 点 健全度	A × B × C  7,812 点
建築区分	延べ面積		被災歴	補修歴	B 84 点	
部 室	365 m <sup>2</sup>		無	無	立地条件	
					C 0.93 点	

別表第1 (表面)鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号						
													中学校		0101						
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果 点 数							
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度				
										主 事				金崎 範仁 ㊞							
									予備 調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		100 点					
										(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞							
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴			Ⅲ 結 果 点 数			
	校舎		①		3+0		一階面積		建築年月		昭和 44 年 4 月		長寿命 化年月		年 月		種 類		被 災 年	内 容	補 修 年
							658 m <sup>2</sup>														
							延べ面積		経過年数		54 年		経過年数		年						
							2,019 m <sup>2</sup>														
																3,999 点					
																0.93 点					

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 平面図に、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度、ひび割れ等の測定位置を記入する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。



棟①  
(管理棟・特別教室棟)  
建 築 年 : 昭和44年  
延べ床面積 : 2,019㎡

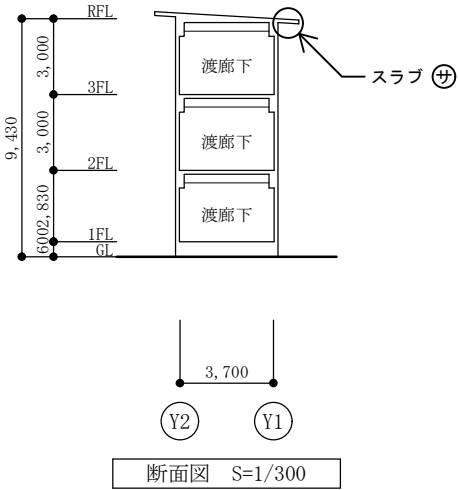
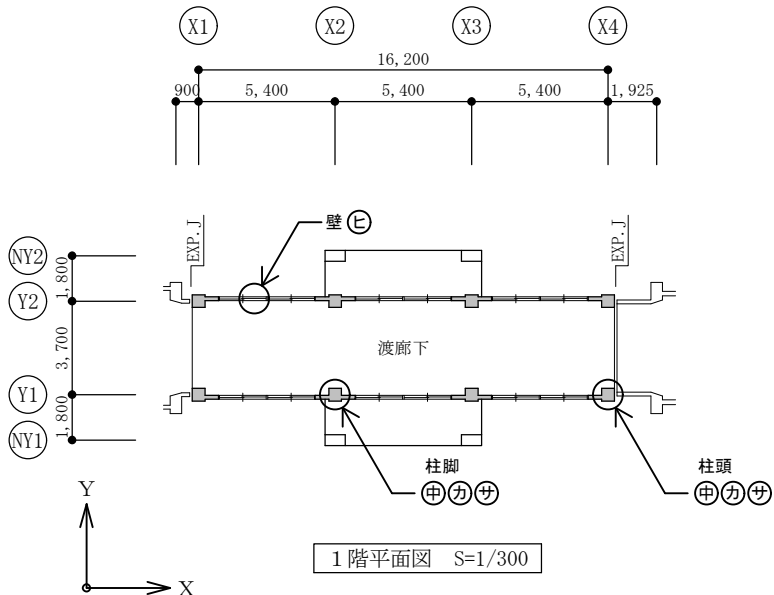
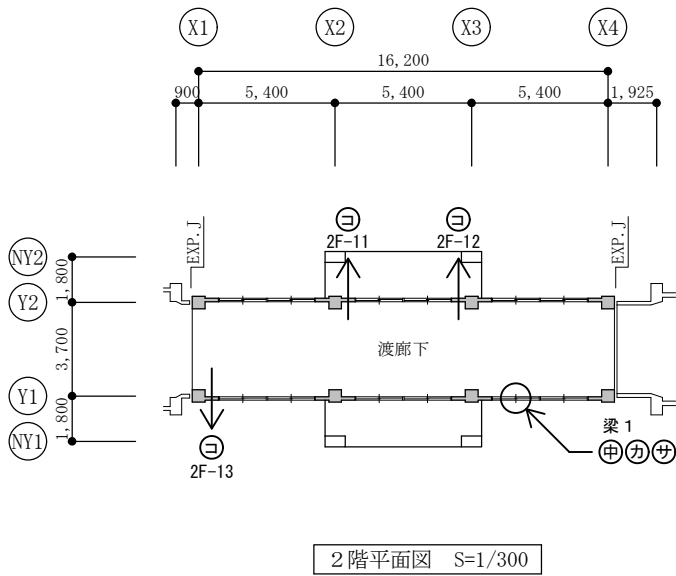
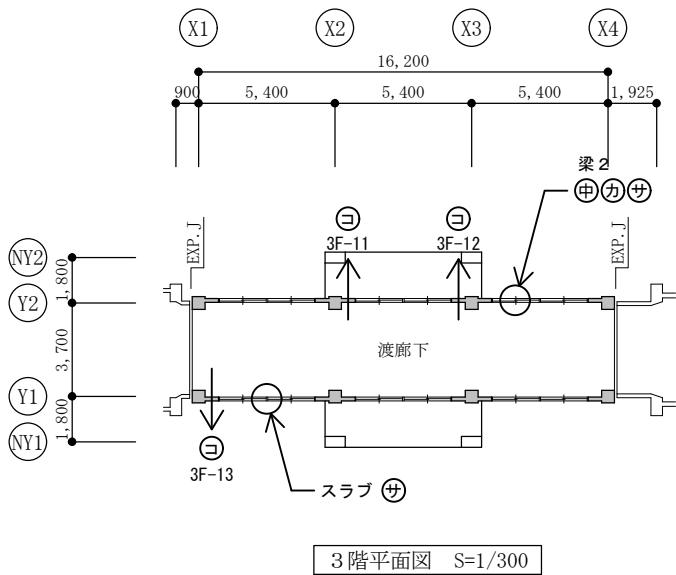
別表第1 (表面)鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号				
													中学校		0101				
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果 点 数					
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度		
										主 事				金崎 範仁 ㊞					
									予備 調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		92 点			
										(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞					
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴			Ⅲ 結 果 点 数	
	校舎		②		3+0		一階面積		建築	昭和 44 年	長寿命	年 月	種 類		被 災 年	内 容			補 修 年
							62 m <sup>2</sup>		年月	4 月	化年月		無し	年	地震補強		平成 23 年		
							延べ面積		経過	54 年	経過				年 数				
							186 m <sup>2</sup>		年数	年数									
																	3,679 点		
																		0.93 点	

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 平面図に、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度、ひび割れ等の測定位置を記入する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡例

- ⊕ コンクリートの中性化試験
- カ 鉄筋のかぶり厚さ
- サ 鉄筋の発錆状況
- ヒ ひび割れ状況
- ⊙ コア採取位置

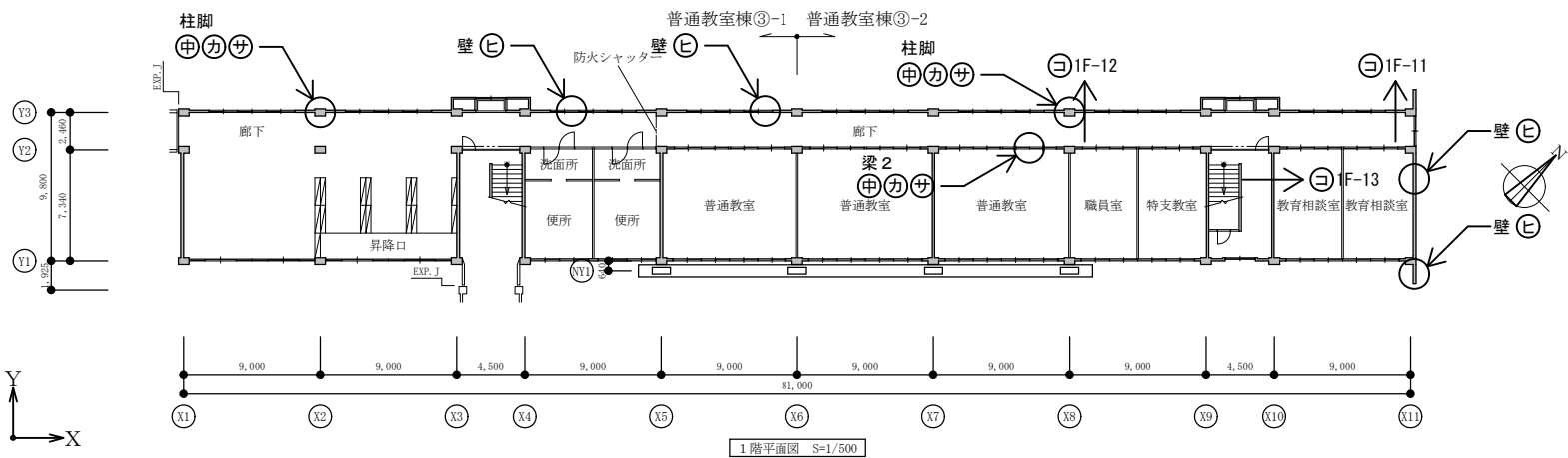
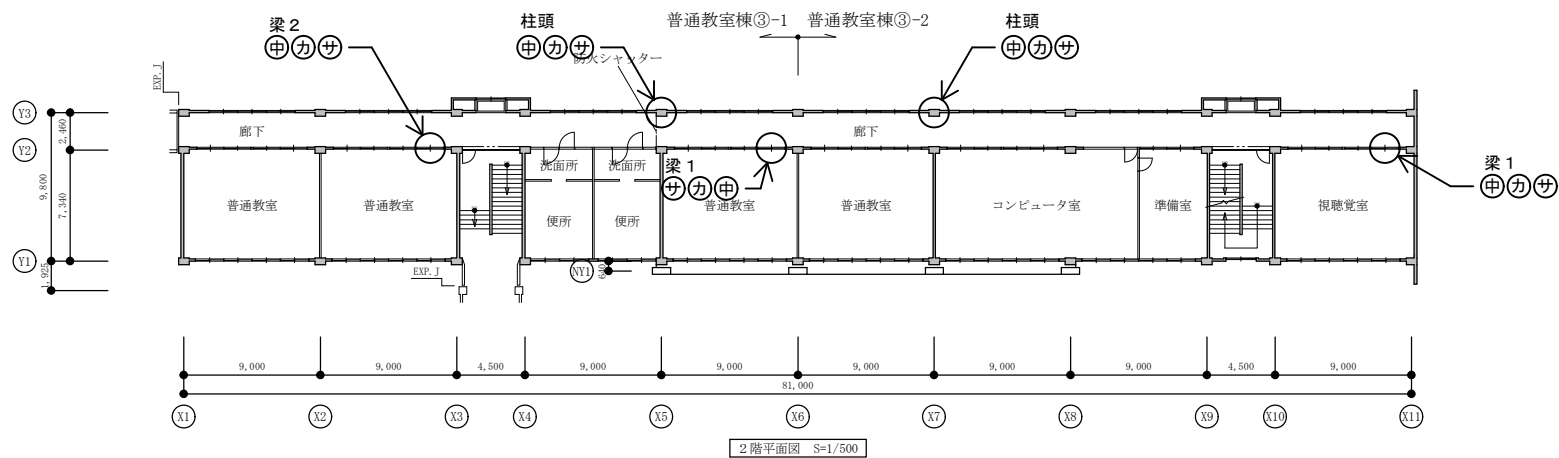
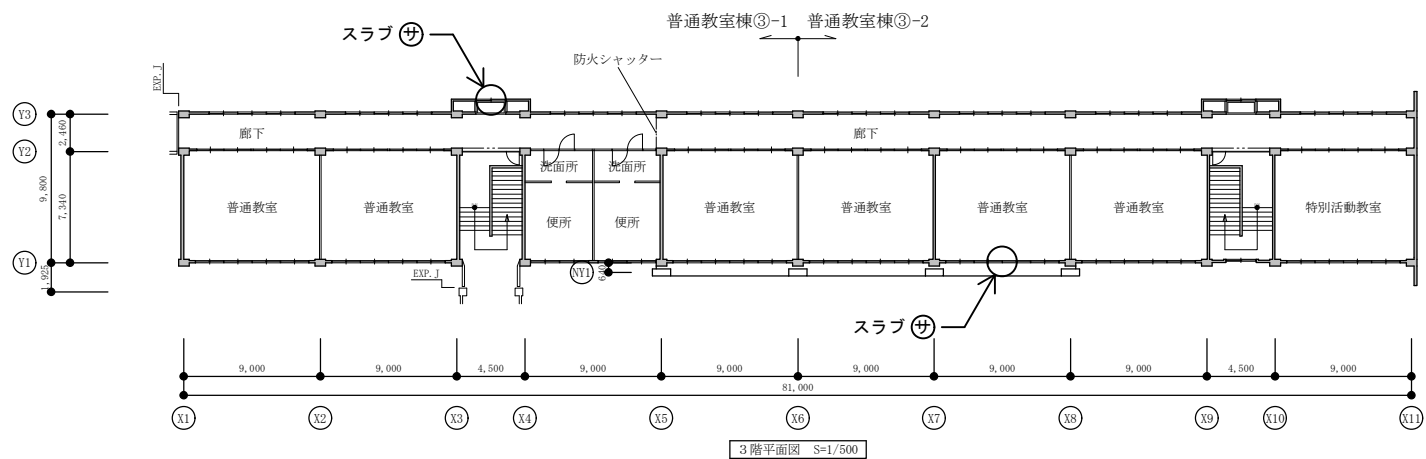


棟②  
(渡廊下)  
建築年 : 昭和44年  
延べ床面積 : 186㎡



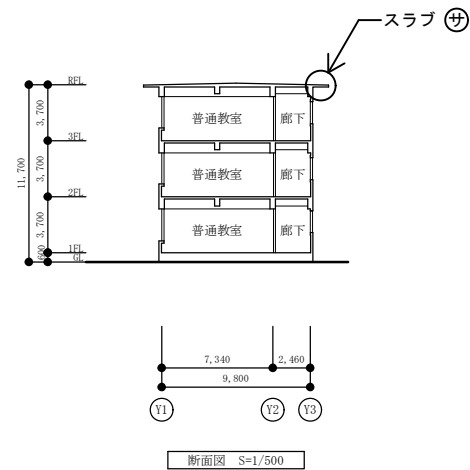
別表第1 (表面)鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票												Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号							
												中学校		0101							
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日				Ⅲ 結 果 点 数						
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		① 構 造 耐 力		耐 力 度  ①×②×③			
										主 事				金崎 範仁 ㊞							
									予備 調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		100 点					
										(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞		② 健 全 度					
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴		43 点		3,999 点		
	校舎		㊸-1		3+0		一階面積		建築 年月	昭和 43 年 8 月	長寿命 化年月	年 月	種 類		被 災 年	内 容		補 修 年		③ 立 地 条 件	
							409 m <sup>2</sup>						無し			地震補強				平成 23 年	
							延べ面積		経過 年数	55 年	経過 年数	年									
							1,227 m <sup>2</sup>														

( 裏 面 )	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、老朽化が目立つ建物である。	
1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。		
2. 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。		
3. 平面図に、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度、ひび割れ等の測定位置を記入する。		
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。		



凡 例

- Ⓜ コンクリートの中性化試験
- Ⓚ 鉄筋のかぶり厚さ
- Ⓢ 鉄筋の発錆状況
- Ⓝ ひび割れ状況
- Ⓚ コア採取位置



棟③－1  
(普通教室棟)  
建 築 年 : 昭和43年  
延べ床面積 : 1,227㎡

棟③－2  
(普通教室棟)  
建 築 年 : 昭和45年  
延べ床面積 : 1,204㎡



別表第1 (表面)鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号					
													中学校		0101					
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果 点 数						
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度			
										主 事				金崎 範仁 ㊞						
									予備 調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		100 点				
										(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞						
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴			3,906 点		
	校舎		㊸-2		3+0		一階面積	建築	昭和 45 年	長寿命	年	年	種 類	被 災 年	内 容	補 修 年				
							400 m <sup>2</sup>	年月	3 月	化年月			無し		地震補強	平成 23 年				
							延べ面積	経過	53 年	経過	年	年								
							1,204 m <sup>2</sup>	年数		年数										
													㊞		0.93 点					

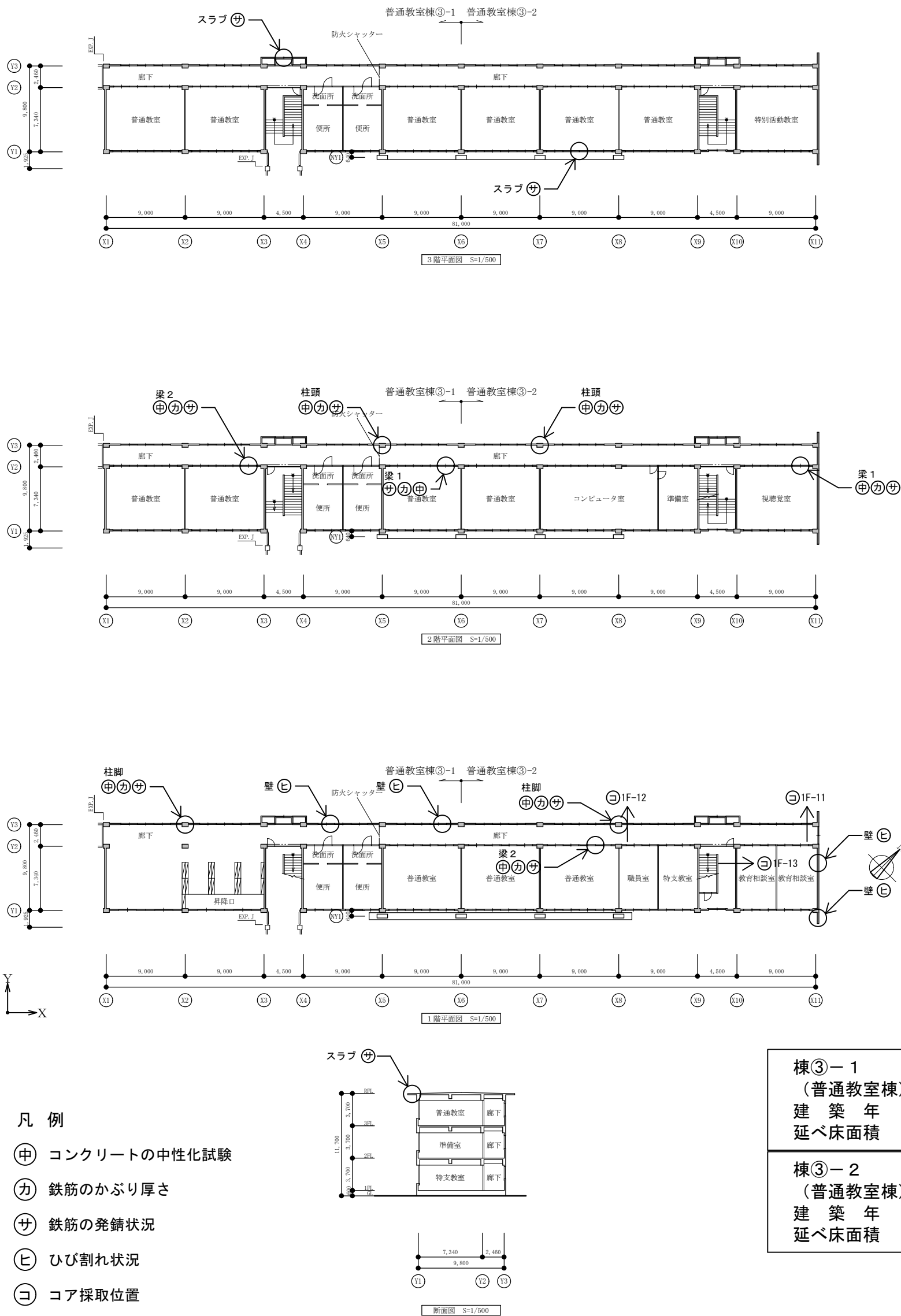
⑤ 構 造 耐 力	① 保 有 耐 力	(a)	階	方向	構造耐震指標 Is		経年指標 T		qi = (Is/T) 0.7		鉄骨定着部 の係数 r α	q = qX × qY × r α	判 別 式		評 点			評点合計
			1	桁行方向 X	0.753	0.965	1.11	—	1.0×1.0×1.0 =1.00	1.0≤q			1.0	㊶ 1.00	㊷ (㊷×50)  50.0 点	㊸=(㊸+㊷+㊶)  100.0 点		
										0.5<q<1.0			直線補間					
		1	張間方向 Y	0.789	0.965	1.17	( ) 註)	q≤0.5	0.3									
		(b)	試 験 区 分		壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	平均値 Fc	k=Fc/20	判 別 式		㊶ 1.00	㊷ (0.3以下は0.3とする) 1.00	㊸				
			コア 試 験	12.7	—	—	—	1.00 (耐震診断で考慮済)	1.0≤k	1.0								
	0.5<k<1.0								直線補間	k≤0.5	0.5							
	② 層 間 変 形 角 θ	階	方向	構造耐震指標 Is	靱性指標 Fu	Fr= Fu × 0.7 (Is/T)		θ	θ の最大値	判 別 式		評 点						
		1	桁行方向 X	0.753	1.00	0.90	1 / 250	1 / 250	θ ≤ 1/200	1.0	㊶ 1.00	㊷ (㊶×20)  20.0 点						
									1/200< θ < 1/120	直線補間								
		1	張間方向 Y	0.789	1.00	0.86	1 / 250	1/120 ≤ θ	0.5									
		③ 基 礎 構 造 β	種別指数 u		基礎の被害予測に関する指数 p					β=u×p	判 別 式		評 点					
			木 杭	0.8	敷地地盤で液状化が予想される				0.8	1.00  □地中梁による低減 <sup>㊺</sup>	1.0≤β	1.0	㊶ 1.00	㊷ (㊶×30)  30.0 点				
	RC杭			0.9	杭基礎でアスペクト比が2.5以上の建物				0.9		0.5< β < 1.0	直線補間						
	その他			1.0	上記に該当しない場合				1.0		β ≤ 0.5	0.5						
	④ 地 震 に よ る 被 災 履 歴 E	過去に経験した最大の被災度							無被害・被災無し		評 価				評 点			
		軽微		小破		中破		大破		1.0	1.00	㊷	1.00					
		1.0		1.0		0.95		0.9										

註) 鉄筋コンクリート造架構の上に鉄骨屋根を載せた屋内運動場(Rタイプ)では、鉄骨屋根のRC定着部について検討する。①保有耐力の「鉄骨定着部の係数<sub>r</sub> α」欄には検討結果の比を、( )内は最小値、又は、平均値を記載して、係数<sub>r</sub> α の算出根拠を示すこと。

註) 屋内運動場で、β 算出時に一方向地中梁による低減係数0.75を考慮した場合には、「□ 地中梁による低減」にチェックすること。

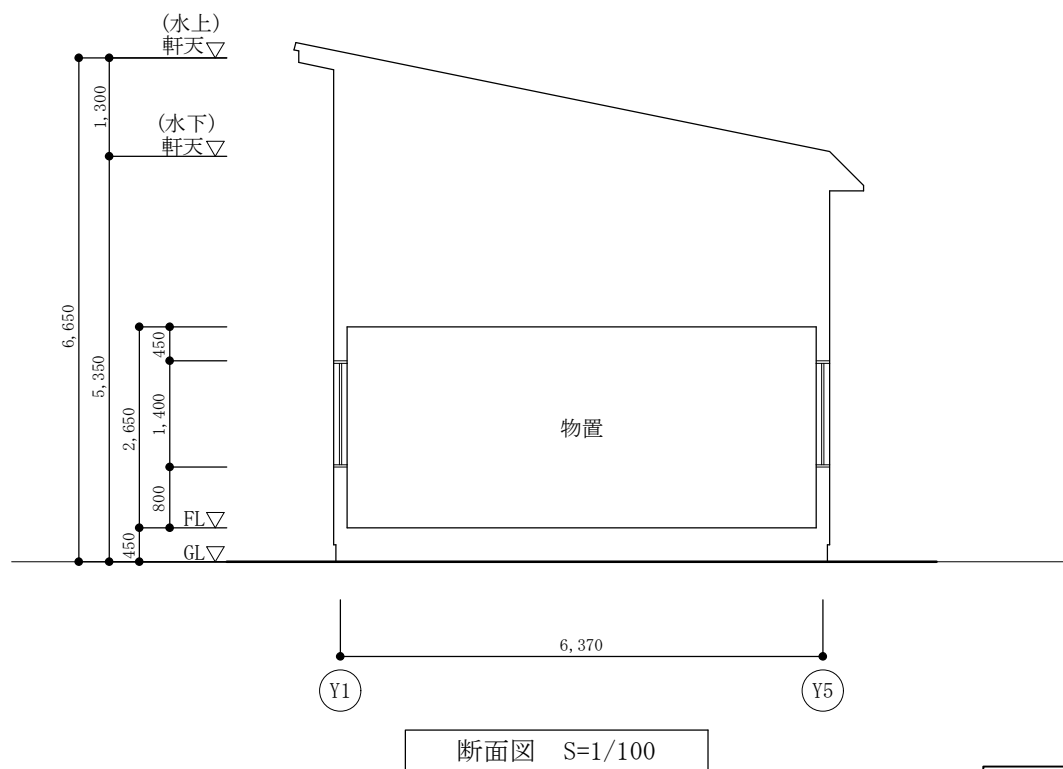
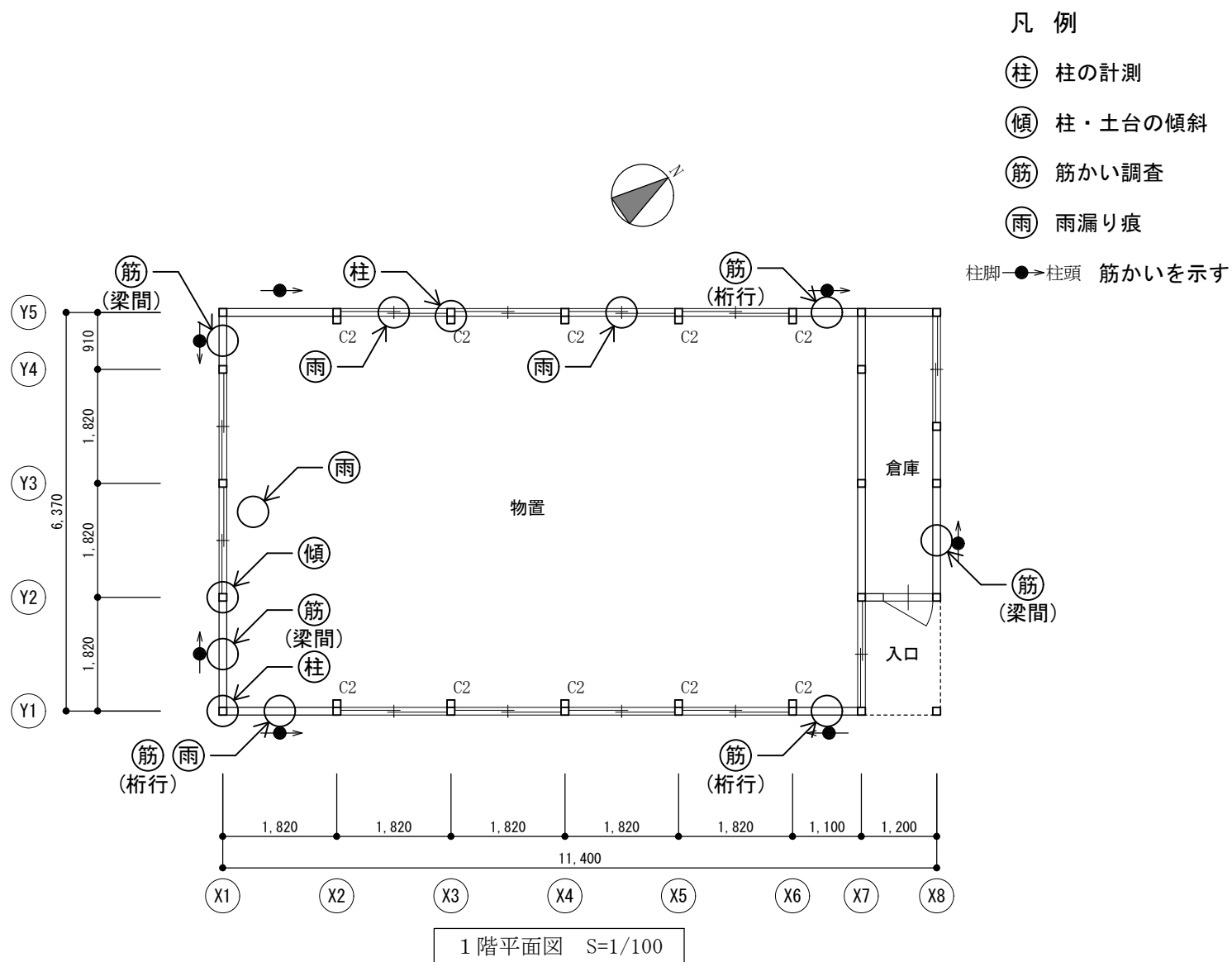
⑥ 健 全 度	① 経 年 変 化 T	経過年数 t		判別式(建築時からの経過年数)				経過年数 t <sub>2</sub>		判別式(長寿命化改良後の経過年数)				評 点		評点合計  <div>㉞= (㉞+㉞+㉞+㉞+㉞+㉞+㉞)  ㉞ 43.6 点</div>				
		53 年		T=(40-t)/40 = 0				— 年		T=(30-t <sub>2</sub> )/40 = —				㉞ 0.00	㉞ (㉞×25) 0.0 点					
	② 鉄 筋 腐 食 度 F	鉄筋腐食状況	柱				梁				グレード最低値 F				評 点					
			ほとんど認められない				ほとんど認められない				0.50				㉞ 0.50		㉞ (㉞×25) 12.5 点			
		グレード		1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5											
		躯体膨張亀裂, さびの溶け出し		柱		梁		壁		床										
		—		—		—		層状さびが認められる												
		グレード		1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5								
	③ コンクリート 中性化深さ等及び 鉄筋かぶり厚さ	(a) コンクリート 中性化深さ等 a	部 位		柱1		梁1		柱2(壁1)		梁2(壁2)		平均値 a					判 別 式		評 点
			中性化深さ		3.0		3.0		3.5		3.6		3.28 ( ) 註)		a ≤ 1.5cm		1.0	㉞ 0.50	㉞ (㉞×10) 5.0 点	
															1.5cm < a < 3cm		直線補間			
		3cm ≤ a		0.5																
		(b) 鉄筋かぶり厚さ b	部 位		柱 頭		柱 脚		梁1		梁2		平均値 b		判 別 式		評 点			
			かぶり厚さ		2.9		1.0		1.2		2.2		1.83		3cm ≤ b		1.0	㉞ 0.61	㉞ (㉞×10) 6.1 点	
	1.5cm < b < 3cm														直線補間					
	b ≤ 1.5cm		0.5																	
	④ 軀 体 の 状 態 D	部 位		柱		梁		壁		床		グレード最低値 D					評 点			
		状 況		—		—		幅1.0mm以上のひび割れが部分的に認められる		—		0.50					㉞ 0.50	㉞ (㉞×20) 10.0 点		
		グレード		1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8								0.5	
	⑤ 不 同 沈 下 量 φ	階	相対沈下量 ε		スパン L		φ = ε / L				φ の最大値		判 別 式		評 点					
			桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	躯体にひび割れを伴なう不同沈下が生じていない		φ ≤ 1/500		1.0		㉞ 1.00	㉞ (㉞×10) 10.0 点		
		1/500 < φ < 1/200		直線補間																
		1/200 ≤ φ		0.5																
	⑥ コンクリート 圧 縮 強 度 k	* 同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が13.5N/mm <sup>2</sup> 以下の場合に適用										判 別 式		評 点						
階		壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	壁・梁 4	壁・梁 5	壁・梁 6	平均値 σ		13.5 ≤ σ 10 < σ < 13.5 σ ≤ 10		1.0 直線補間 0.8		㉞ 0.96						
3		13.0	11.8	12.3	14.1	12.0	13.1	12.72												
評値後被災面積 S <sub>t</sub>		S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00				0		0												
⑦ 火 災 に よ る 疲 弊 度 S	程 度		構 造 体 変 質		非構造材 全 焼		非構造材 半 焼		煙害程度		当該階の 床面積 S <sub>0</sub>		被災率S S = S <sub>t</sub> /S <sub>0</sub>		判 別 式		評 点			
	被災床面積		S <sub>1</sub>	0	S <sub>2</sub>	0	S <sub>3</sub>	0	S <sub>4</sub>	0	0		0		S=0		1.0	㉞ 1.00		
	評価後被災面積 S <sub>t</sub>		S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00																	
	S <sub>t</sub>		S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00																	

( 裏 面 )	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、老朽化が目立つ建物である。	
1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。		
2. 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。		
3. 平面図に、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度、ひび割れ等の測定位置を記入する。		
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。		



木造の建物の耐力度調査票(耐震診断未実施用)													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号						
(表面)													中学校		0101						
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日～令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果 点 数							
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		① 構 造 耐 力	耐 力 度				
												金崎 範仁 ㊞									
									予備調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		② 健 全 度	点	①×②×③			
		(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞															
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴		Ⅳ 結 果 点 数				
	校舎		㊸		1+0		一階面積		建築年月		昭和 46 年 8 月		長寿命化年月		年 月			種 類	被 災 年	内 容	補 修 年
							73 ㎡														
							延べ面積		経過年数		52 年		経過年数		年						
						73 ㎡										③ 立 地 条 件	4453				
																		0.93 点			

( 裏 面 )	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	構造耐力・健全度ともに老朽化が目立つ建物である。	
1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、 他と区別できるような太線とする。		
2. 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。		
3. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。		



棟⑧  
(物置)  
建 築 年 : 昭和46年  
延べ床面積 : 73㎡



## 別表第1

(表面)

## 鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票

別表第1 (表面)																鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票				Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号	
																中学校				0101			
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日～令和 5 年 3 月 24 日						Ⅲ 結 果 点 数						
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度						
										主 事				金崎 範仁 ㊞									
									予備 調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		④ 100 点	④×⑤×⑥						
										(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞									
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号	階 数	面積	建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴		Ⅲ 結 果 点 数									
	校舎		㊞-1		3+0		一階面積	建築	昭和 51 年	長寿命	年	種 類	被 災 年	内 容	補 修 年	44 点							
							230 m <sup>2</sup>	年月	1 月	化年月	年	無し	年	地震補強	平成 23 年	④ 立 地 条 件							
							延べ面積	経過	48 年	経過	年												
							689 m <sup>2</sup>	年数	年数	年													
															0.93 点								
																				4,092 点			

構造	①	(a)	階	方向	構造耐震指標		経年指標	$q_i = \frac{(I_s/T)}{0.7}$	鉄骨定着部の係数 $r_\alpha$	$q = q_X \times q_Y \times r_\alpha$	判別式		評点			評点合計				
			1	桁行方向 X	0.793	0.981	1.15	—	$1.0 \times 1.0 \times 1.0 = 1.00$	$1.0 \leq q$	1.0	㊦ ( ㊧ $\times$ ㊨ $\times$ ㊩ $\times$ ㊪ $\times$ ) (0.3以下は0.3とする) 1.00	㊫ $\times$ 50  50.0 点							
										1	張間方向 Y			1.157	0.981		1.68	( ) 註	$0.5 < q < 1.0$	直線補間
																			$q \leq 0.5$	0.3
有耐力	(b)	試験区分	壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	平均値 Fc	k=Fc/20	判別式		㊬	1.00 (耐震診断で考慮済)	1.00 (0.3以下は0.3とする) 1.00	㊭ $\times$ 50  50.0 点							
								コンクリート 圧縮強度 k	コア試験					16.8	—	—	—	$1.0 \leq k$	1.0	
																		$0.5 < k < 1.0$	直線補間	
																		$k \leq 0.5$	0.5	
耐	②	層間変形角 $\theta$	階	方向	構造耐震指標	靱性指標	$Fr = Fu \times \frac{0.7}{(I_s/T)}$	$\theta$	$\theta$ の最大値	判別式		評点								
			1	桁行方向 X	0.793	1.00	0.87	1 / 250	1 / 250	$\theta \leq 1/200$	1.0	㊮  1.00	㊯ $\times$ 20  20.0 点							
										1	張間方向 Y			1.157	1.00	0.59	1 / 250	$1/200 < \theta < 1/120$	直線補間	
																		$1/120 \leq \theta$	0.5	
力	③	基礎構造 $\beta$	種別指数 u		基礎の被害予測に関する指数 p				$\beta = u \times p$	判別式		評点								
			木杭	0.8	敷地地盤で液化化が予想される			0.8	1.00	$1.0 \leq \beta$	1.0	㊰  1.00	㊱ $\times$ 30  30.0 点							
										RC杭	0.9			杭基礎でアスペクト比が2.5以上の建物		0.9				
																	その他	1.0	上記に該当しない場合	
耐	④	地震による被災履歴 E	過去に経験した最大の被災度						無被害・被災無し	評価		評点								
			軽微	小破	中破	大破	1.00	㊲  1.00		1.00										
			1.0	1.0	0.95	0.9			1.0											

㊲=㊰+㊱+㊲+㊳

㊴=㊰ $\times$ ㊵

㊶=㊰ $\times$ ㊷

100点

註)鉄筋コンクリート造架構の上に鉄骨屋根を載せた屋内運動場(Rタイプ)では、鉄骨屋根のRC定着部について検討する。①保有耐力の「鉄骨定着部の係数、 $\alpha$ 」欄には検討結果の比を、( )内は最小値、又は、平均値を記載して、係数、 $\alpha$ の算出根拠を示すこと。

註) 屋内運動場で、 $\beta$  算出時に一方向地中梁による低減係数0.75を考慮した場合には、「☐ 地中梁による低減」にチェックすること。

健康	①	経過年数 $t$	判別式(建築時から経過年数)	経過年数 $t_2$	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	点	評点合計  $\textcircled{7}=(\textcircled{1}+\textcircled{2}+\textcircled{7}+\textcircled{7}+\textcircled{3}+\textcircled{2})$  $\textcircled{7}$ <div>44.3 点</div>					
	経年変化 $T$	48 年	$T=(40-t)/40 = 0$	— 年	$T=(30-t_2)/40 = —$	$\textcircled{7}$ 0.00	$\textcircled{1} (\textcircled{7} \times 25)$ 0.0 点						
	② 鉄筋腐食度 $F$	鉄筋腐食状況	柱		梁		グレード最低値 $F$		評点				
			部分的に点食を認める		部分的に点食を認める		0.50		$\textcircled{7}$ 0.50 $\textcircled{2} (\textcircled{7} \times 25)$ 12.5 点				
		グレード	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8		0.5	0.50	12.5 点		
		躯体膨張亀裂、さびの溶け出し	柱		梁		壁		床				
			—		層状さびが認められる		—		—				
	グレード	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5		1.0	0.8	0.5		
	③ コンクリート中性化深さ等及び鉄筋かぶり厚さ	(a) コンクリート中性化深さ等 $a$	部位	柱1	梁1	柱2(壁1)	梁2(壁2)		平均値 $a$	判別式		評点	
			中性化深さ	2.9	4.5	2.5	3.3		3.30 ( ) 註	$a \leq 1.5\text{cm}$	1.0	$\textcircled{2}$ 0.50 $\textcircled{7} (\textcircled{2} \times 10)$ 5.0 点	$\textcircled{7} (\textcircled{2} \times 10)$
$1.5\text{cm} < a < 3\text{cm}$								直線補間					
3cm $\leq a$		0.5											
(b) 鉄筋かぶり厚さ $b$		部位	柱頭	柱脚	梁1	梁2	平均値 $b$	判別式		評点			
		かぶり厚さ	1.8	2.2	2.0	2.1	2.03	3cm $\leq b$	1.0	$\textcircled{3}$ 0.68 $\textcircled{7} (\textcircled{3} \times 10)$ 6.8 点	$\textcircled{7} (\textcircled{3} \times 10)$		
								$1.5\text{cm} < b < 3\text{cm}$	直線補間				
	$b \leq 1.5\text{cm}$							0.5					
④ 躯体の状態 $D$	部位	柱	梁	壁	床	グレード最低値 $D$		評点					
	状況	—	—	幅1.0mm以上のひび割れが部分的に認められる	—	0.50		$\textcircled{7}$ 0.50 $\textcircled{2} (\textcircled{7} \times 20)$ 10.0 点	$\textcircled{2} (\textcircled{7} \times 20)$				
	グレード	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5			
⑤ 不同沈下量 $\phi$	階	相対沈下量 $\varepsilon$		スパン $L$		$\phi = \varepsilon / L$		$\phi$ の最大値	判別式		評点		
		桁行方向 $X$	張間方向 $Y$	桁行方向 $X$	張間方向 $Y$	桁行方向 $X$	張間方向 $Y$		$\phi \leq 1/500$	1.0	$\textcircled{4}$ 1.00 $\textcircled{2} (\textcircled{4} \times 10)$ 10.0 点	$\textcircled{2} (\textcircled{4} \times 10)$	
	1	—	—	—	—	—	躯体にひび割れを伴う不同沈下が生じていない	$1/500 < \phi < 1/200$	直線補間				
								$1/200 \leq \phi$	0.5				
⑥ コンクリート圧縮強度 $k$	* 同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が13.5N/mm <sup>2</sup> 以下の場合に適用								判別式		評点		
	階	壁・梁1	壁・梁2	壁・梁3	壁・梁4	壁・梁5	壁・梁6	平均値 $\sigma$	13.5 $\leq \sigma$		$\textcircled{2}$ 1.00		
	該当なし	—	—	—	—	—	—	—	$10 < \sigma < 13.5$	直線補間			
									$\sigma \leq 10$	0.8			
⑦ 火災による疲弊度 $S$	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積 $S_0$	被災率 $S = S_t / S_0$	判別式		評点			
	被災床面積 $S_1$	0	$S_2$	0	$S_3$	0	$S_4$	0	$\textcircled{5}$ 1.00				
	評価後被災面積 $S_t$	$S_t = S_1 + S_2 \times 0.75 + S_3 \times 0.5 + S_4 \times 0.25 = 0.00$				0	0	$S = 0$		1.0			
								$0 < S < 1$		直線補間			
								$S = 1$	0.5				

⑧=( $\textcircled{7} \times \textcircled{2} \times \textcircled{5}$ )  

⑧44 点

註) 材料試験により使用骨材の塩化物量が0.1%を超えることを確認した場合、③中性化深さの「平均値a」欄の( )内に塩化物量を記入する。  
この場合、(オ)の評点は中性化試験結果によらず0.5に読替える。

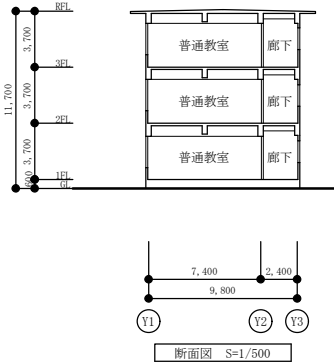
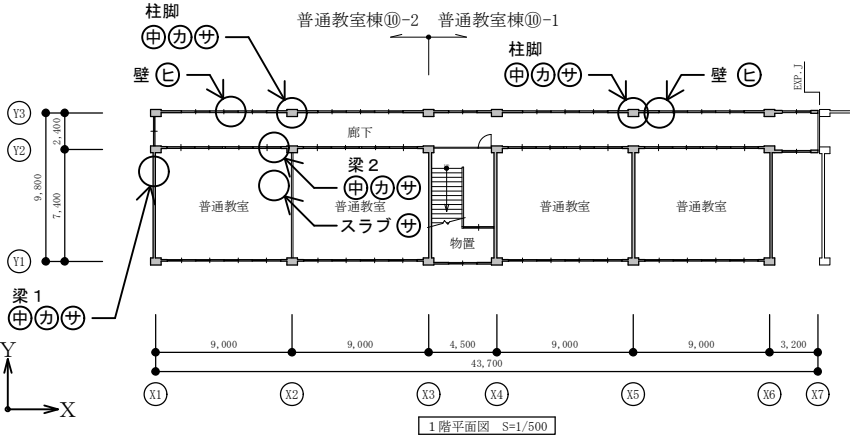
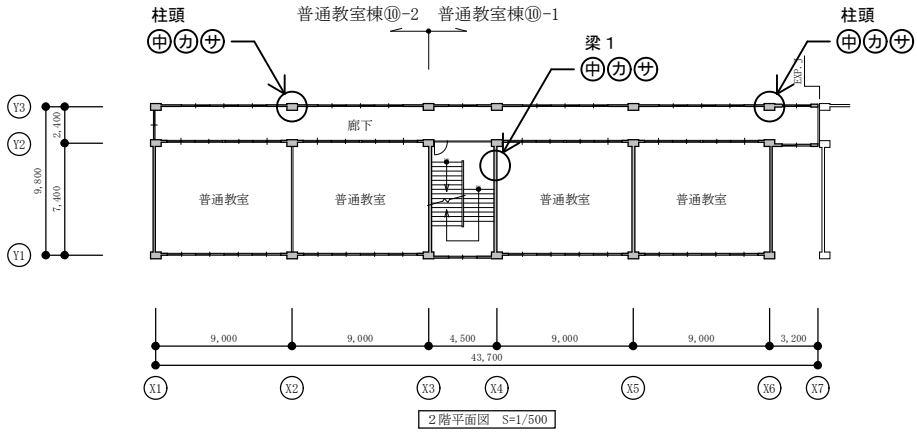
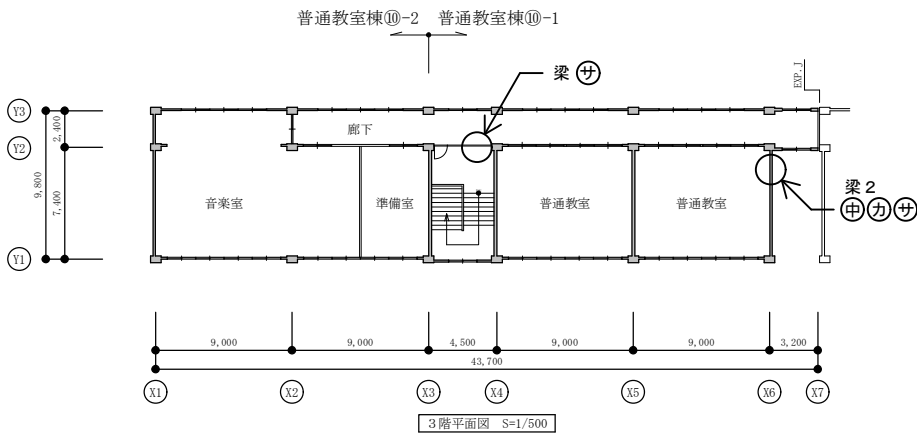
立地条件	① 地震地域係数		② 地盤種別		③ 敷地条件		④ 積雪寒冷地域		⑤ 海岸からの距離		評価	評点
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	$C = \frac{①+②+③+④+⑤}{5}$ $= \frac{0.85+0.9+1.0+0.9+1.0}{5}$ $= 0.93$	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <b>C</b>   <b>0.93</b> </div>
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	崖地	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9		
	二種地域	0.85			支持地盤が著しく傾斜した敷地	0.9						
	一種地域	0.8	三種地盤	0.8	局所的な高台	0.9	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8		

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 平面図に、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度、ひび割れ等の測定位置を記入する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- ⊕ コンクリートの中性化試験
- ⊖ 鉄筋のかぶり厚さ
- ⊕ 鉄筋の発錆状況
- ⊖ ひび割れ状況



棟⑩－１  
（普通教室棟）  
建 築 年 ： 昭 和 ５ １ 年  
延べ床面積 ： ６８９㎡

棟⑩－２  
（普通教室棟）  
建 築 年 ： 昭 和 ５ ３ 年  
延べ床面積 ： ５３５㎡



別表第1 (表面)鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号			
													中学校		0101			
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果 点 数				
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名	一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度		
										主 事			金崎 範仁 ㊞					
									予備 調査者	会社名	一級建築士登録番号		氏 名		100 点			
										(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞				
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数			被 災 歴		補 修 歴		44 点	4,092 点	
	校舎		㊞－2		3＋0		一階面積	建築	昭和 53 年	長寿命	年 月	種 類	被 災 年	内 容	補 修 年			
							178 m <sup>2</sup>	年月	3 月	化年月								
							延べ面積	経過	45 年	経過								年
							535 m <sup>2</sup>	年数		年数								
										無し		地震補強		平成 23 年				

⑤ 構 造 耐 力	①	(a)	保 有 耐 力	階	方向	構造耐震指標 Is		経年指標 T	qi = (Is/T) 0.7	鉄骨定着部 の係数 r α  ( ) 註)	q = qX × qY × r α  1.0 × 1.0 × 1.0 = 1.00	判 別 式		評 点			評点合計  <
-----------------------	---	-----	------------------	---	----	--------------	--	-----------	--------------------	--------------------------------	--	-------	--	-----	--	--	---

註) 鉄筋コンクリート造架構の上に鉄骨屋根を載せた屋内運動場(Rタイプ)では、鉄骨屋根のRC定着部について検討する。①保有耐力の「鉄骨定着部の係数<sub>r</sub> α」欄には検討結果の比を、( )内は最小値、又は、平均値を記載して、係数<sub>r</sub> α の算出根拠を示すこと。

註) 屋内運動場で、β 算出時に一方向地中梁による低減係数0.75を考慮した場合には、「□ 地中梁による低減」にチェックすること。

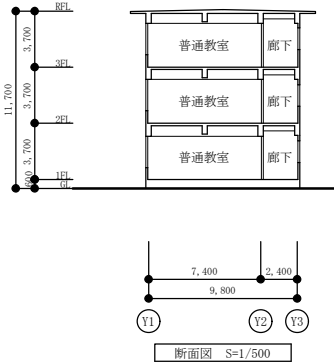
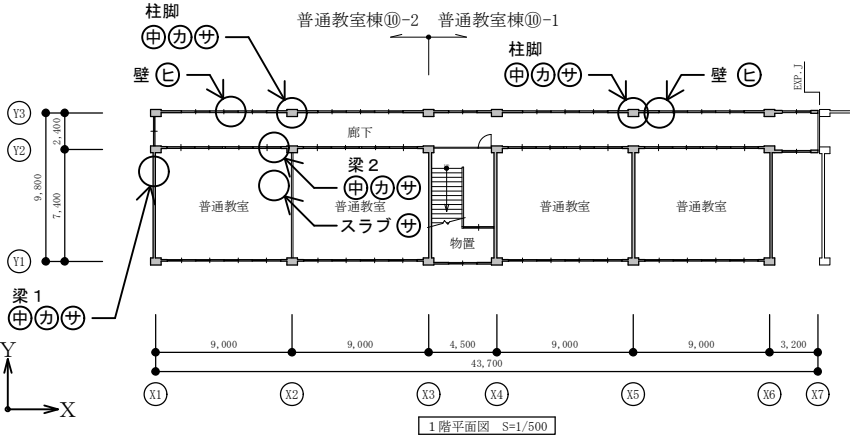
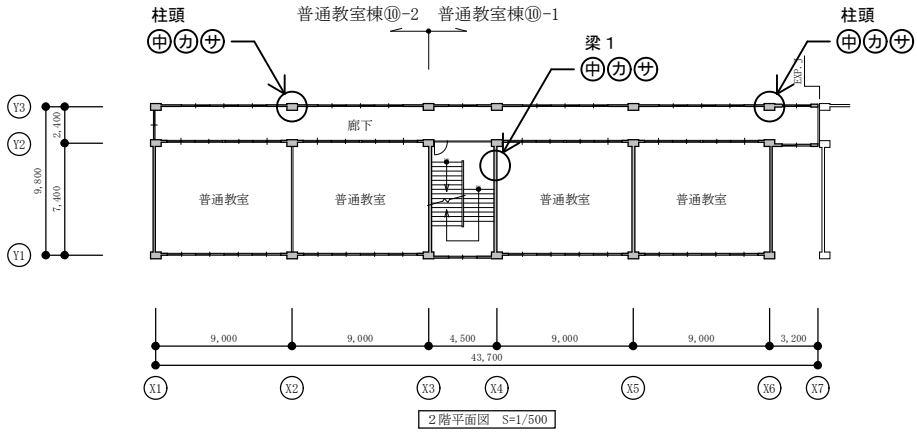
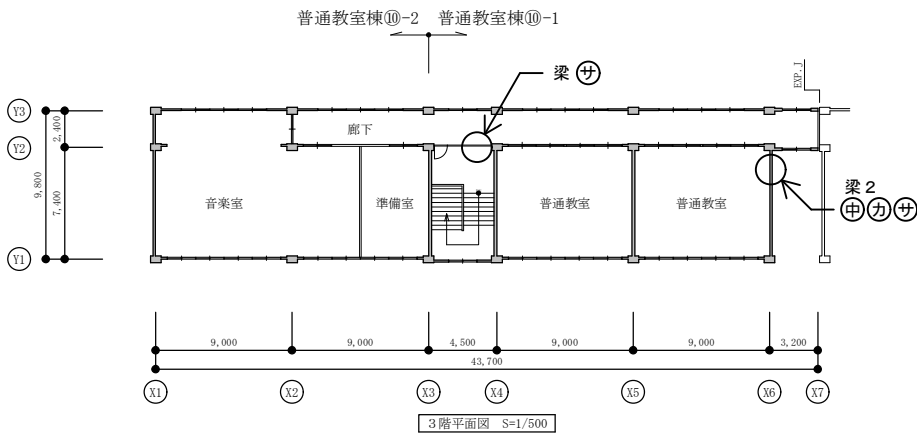
⑥ 健 全 度	①	経過年数 t		判別式(建築時からの経過年数)						経過年数 t <sub>2</sub>						判別式(長寿命化改良後の経過年数)						評 点		評点合計   <div>⑦=(⑦+⑤+⑦+ ⑦+③+⑤)</div> <div>⑦</div> <div>44.1 点</div> <div>⑥=(⑦×⑧×⑥)</div> <div>⑥</div> <div>44 点</div>					
	経 年 変 化 T	45 年		T=(40-t)/40 = 0						— 年						T=(30-t <sub>2</sub> )/40 = —						㊦ 0.00	① (㊦×25) 0.0 点						
	②	鉄 筋 腐 食 度 F	鉄筋腐食状況	柱						梁						グレード最低値 F						評 点							
	部分的に点食を認める						部分的に点食を認める						0.50						㊧ 0.50	② (㊧×25) 12.5 点									
	グレード						1.0		0.8		0.5										1.0		0.8		0.5				
	躯体膨張亀裂, さびの溶け出し			柱			梁			壁											床								
				—			—			—											層状さびが認められる								
	グレード						1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5											
	③	コンクリート 中性化深さ等及び 鉄筋かぶり厚さ	(a)	部 位	柱1			梁1			柱2(壁1)			梁2(壁2)			平均値 a			判 別 式		評 点							
	コンクリート 中性化深さ等 a			中性化深さ	3.5	3.7	3.0	3.1	3.33 ( ) 註)	a ≤ 1.5cm		1.0		㊨ 0.50	③ (㊨×10) 5.0 点														
										1.5cm < a < 3cm		直線補間																	
	3cm ≤ a		0.5																										
	(b)		鉄筋かぶり厚さ b	かぶり厚さ	1.9	1.7	2.4	1.9	1.98	判 別 式		評 点																	
										3cm ≤ b		1.0		㊩ 0.66	④ (㊩×10) 6.6 点														
										1.5cm < b < 3cm		直線補間																	
		b ≤ 1.5cm								0.5																			
	④	軀 体 の 状 態 D	部 位	柱			梁			壁			床			グレード最低値 D						評 点							
	状 況		—			—			幅1.0mm以上のひび割れが 部分的に認められる			—			0.50						㊫ 0.50	⑤ (㊫×20) 10.0 点							
	グレード		1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5															
	⑤	不 同 沈 下 量 φ	階	相対沈下量 ε		スパン L		φ = ε / L						φ の最大値	判 別 式		評 点												
	桁行方向 X			張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	φ ≤ 1/500		1.0		㊪ 1.00	⑥ (㊪×10) 10.0 点											
	1		—	—	—	—	—	—	—	躯体にひび割れを 伴なう不同沈下が 生じていない	1/500 < φ < 1/200		直線補間																
											1/200 ≤ φ		0.5																
	⑥	コンクリート 圧 縮 強 度 k	* 同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が13.5N/mm <sup>2</sup> 以下の場合に適用												判 別 式		評 点												
階	壁・梁 1		壁・梁 2	壁・梁 3	壁・梁 4	壁・梁 5	壁・梁 6	平均値 σ	判 別 式		評 点																		
該当 なし	—		—	—	—	—	—	—	—	13.5 ≤ σ		1.0		㊬ 1.00	1.00														
										10 < σ < 13.5		直線補間																	
										σ ≤ 10		0.8																	
⑦	火 災 に よ る 疲 弊 度 S	程 度	構 造 体 変 質	非構造材 全 焼	非構造材 半 焼	煙害程度	当該階の 床面積 S <sub>0</sub>	被災率S S = S <sub>t</sub> /S <sub>0</sub>	判 別 式		評 点																		
被災床面積		S <sub>1</sub> 0	S <sub>2</sub> 0	S <sub>3</sub> 0	S <sub>4</sub> 0	0	0	S=0		1.0		㊭ 1.00																	
評価後被災 面積 S <sub>t</sub>		S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00						0 < S < 1		直線補間																			
								S=1		0.5																			

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、老朽化が目立つ建物である。	

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
3. 平面図に、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度、ひび割れ等の測定位置を記入する。
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- Ⓢ コンクリートの中性化試験
- Ⓚ 鉄筋のかぶり厚さ
- Ⓜ 鉄筋の発錆状況
- Ⓛ ひび割れ状況



棟⑩－１  
（普通教室棟）  
建 築 年 ： 昭 和 ５ １ 年  
延べ床面積 ： ６８９㎡

棟⑩－２  
（普通教室棟）  
建 築 年 ： 昭 和 ５ ３ 年  
延べ床面積 ： ５３５㎡



別表第2 (表面)鉄骨造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号		
													中学校		0101		
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日				Ⅲ 結 果 点 数		
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名	一級建築士登録番号		氏 名		① 構 造 耐 力	耐 力 度 ①×②×③	
									技 師			金崎 範仁 ㊦					
									予備 調査者	会社名	一級建築士登録番号		氏 名		② 健 全 度		
				(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊦		点							
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面 積		建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴		点
	校舎		㊦		1+0		一階面積	建築	昭和 51 年	長寿命	年	種 類	被 災 年	内 容	補 修 年		
							332 m <sup>2</sup>	年月	1 月	化年月							
							延べ面積	経過	48 年	経過							
							332 m <sup>2</sup>	年数	年数	年数							
										無し		地震補強		平成 23 年	点		
																0.93 点	

①	構	造	耐	力	架	構	耐	力	α	1	桁	方	向	X	Q <sub>u</sub> /ΣW	F	A <sub>i</sub>	E <sub>oi</sub>	I <sub>si</sub>	1.14	部	材	鉛直荷重時			暴風時		応力比 f/σ ≤1.0		1981年以前の場合		α 評点	評点合計			
																							長期G+P		積雪時	許容応力 f	作用応力 σ	作用応力 σ	許容応力 f					作用応力 σ	鉛直荷 重時	暴風時
																							許容応力 f	作用応力 σ	作用応力 σ											
																							中央	157	30.9	132.0	235	81.8	1.19	2.87	B α =min(a,1) × min(b,1)	f α = min(B α ,s α )	㊦ α =50× ((min(I <sub>s</sub> ,0.7) +1.3) × f α )	㊠=㊦	100	点
両端	157	0	0	235	0.0	-	-																													
平均						1.19	2.87																													
柱	101	4.9	14.9	152	10.8	6.78	14.07																													
筋かい				235	2.0		117.50																													
二重枠内の最小値							a 1.00	b 1.00	1.00	1.00	100.0	100	点																							
中央	114	23.1	98.4	171	53.8	1.16	3.18	s α =min(c,1) × min(d,1)						1.00																						
両端	114	20.6	87.8	171	65.3	1.30	2.62																													
平均						1.23	2.90																													
柱	128	26.8	106.7	192	76.8	1.20	2.50	1.00						1.00																						
筋かい				-	-		-																													
二重枠内の最小値							c 1.00	d 1.00																												

全 健 度	① 経 年 変 化 T	経過年数 t		判別式(建築時から経過年数)				経過年数 t <sub>2</sub>		判別式(長寿命化改良後の経過年数)				評 点		評点合計				
		48 年		T=(40-t)/40 = 0.00				— 年		T=(30-t <sub>2</sub> )/40 = —				㊦ 0.00	㊩ (㊦×25) 0.0 点					
	② 筋かいのたわみ L	桁行方向 有 無		張間方向 有 無		屋根面 有 無		/	最低値 L				評 点		㊨=(㊩+㊪+㊫+㊬+㊭+㊮+㊯) 10.0 点					
		目視によりたわみ無し		—		目視によりたわみ無し			L= 1.00				㊨ 1.00	㊰ (㊨×10) 10.0 点						
	③ 鉄 骨 腐 食 度 F	部材区分		断面欠損を伴う腐食 無		断面欠損を伴う腐食 (10%以上の減厚)		断面を貫通する腐食		最低値 F				評 点			㊱ 60.0 点			
		主要構造材		1.0		0.5		0.0		F= 1.00				㊱ 1.00	㊲ (㊱×10) 10.0 点					
		非主要構造材		1.0		0.5		0.0												
	④ 非構造部材等の危険度 W	危険な要因1 (0.8)		危険な要因2 (0.6)		危険な要因3 (0.5)		危険要因無し (1.0)		評価				評 点			㊳ 15.0 点			
		—		—		非構造部材の腐食 照明器具 スピーカー				W= 0.50				㊴ 0.50	㊴ (㊴×30) 15.0 点					
	⑤ 架構剛性性能 θ	階	層間変位 δ		階高h		θ = δ / h		θ の 最大値	判 別 式				評 点			㊵=㊶×min(㊷,㊸) 15.0 点			
			1	0.47	2.16	480.0	470.2	1/ 1021		1/ 218	1/ 218	θ ≤ 1/200		1.0	㊶ 1.00			㊹ (㊶×15) 15.0 点		
												1/200 < θ < 1/120		直線補間						
1/120 ≤ θ												0.5								
⑥ 不同沈下量 φ	階	相対沈下量 ε		スパンL		φ = ε / L		φ の 最大値	判 別 式				評 点		㊺ 10.0 点					
		1	—	—	—	—	—		躯体にひび割れを伴う不同沈下が生じていない	φ ≤ 1/500		1.0	㊷ 1.00	㊺ (㊷×10) 10.0 点						
										1/500 < φ < 1/120		直線補間								
										1/120 ≤ φ		0.5								
⑦ 火 災 に よ る 疲 弊 度 S	程 度		構 造 体 変 質		非構造材 全 焼		非構造材 半 焼		煙害程度		当該階の床面積 S <sub>0</sub>		被災率S S = S <sub>t</sub> /S <sub>0</sub>		判 別 式		評 点		㊻ 1.00 点	
	被災床面積		S <sub>1</sub> 0	S <sub>2</sub> 0	S <sub>3</sub> 0	S <sub>4</sub> 0	0	0	S=0		1.0	㊸ 1.00								
	評価後被災面積 S <sub>t</sub>		S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00						0 < S < 1		直線補間									
									S=1		0.5									
⑧ 地 震 等 に よ る 被 災 歴 E	被災歴なし 被災度区分軽微		被災度区分小破 補修工事済み		被災度区分中破 補修工事済み		被災度区分大破 補修工事済み		評 価				評 点		㊼ 1.00 点					
	1.0		0.95		0.9		0.8		1.00											

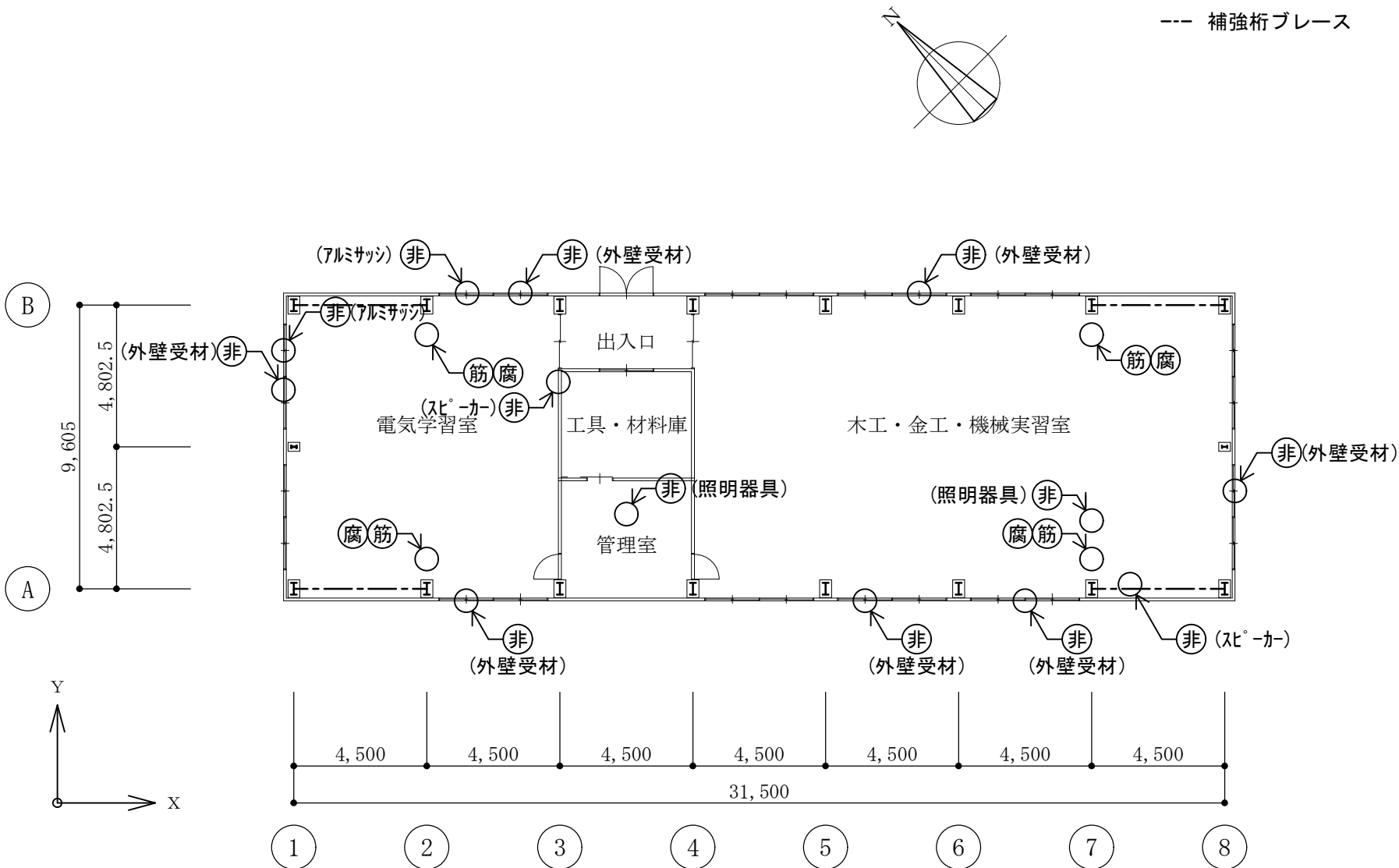
立 地 条 件	① 地震地域係数		② 地 盤 種 別		③ 敷 地 条 件		④ 積 雪 寒 冷 地 域		⑤ 海 岸 からの 距 離		評 価	評 点								
	四 種 地 域	1.0	一 種 地 盤	1.0	平 坦 地	1.0	そ の 他 地 域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	$\text{㉔} = \frac{\text{㉑} + \text{㉒} + \text{㉓} + \text{㉔} + \text{㉕}}{5}$ $= \frac{0.85 + 0.9 + 1.0 + 0.9 + 1.0}{5}$ $= \mathbf{0.93}$	<div><div>㉔</div><div>0.93</div></div>								
	三 種 地 域	0.9			傾 斜 地 崖 地 ( 3 m 未 満 )	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9										
	二 種 地 域	0.85											三 種 地 盤	0.8	崖 地 ( 3 m 以 上 )	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8
	一 種 地 域	0.8																		

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	耐震補強済みの建物で構造耐力は優れているが、 老朽化が目立つ建物である。	

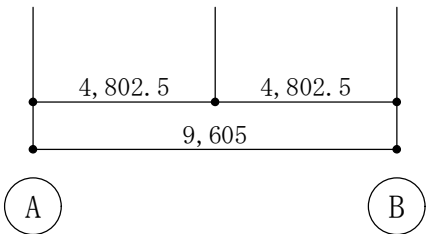
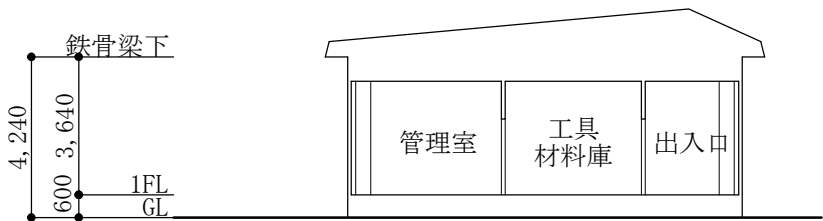
- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- 筋 筋かいたわみ確認
- 腐 鉄骨腐食度
- 非 非構造部材の危険度
- 補強桁ブレース



1 階平面図 S=1/200



断面図 S=1/200

棟⑪  
(特別教室棟)  
建 築 年 : 昭 和 5 1 年  
延 べ 床 面 積 : 332㎡



## 鉄骨造の建物の耐力度調査票

別表第2 (表面)													鉄骨造の建物の耐力度調査票										Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号				
																							中学校		0101				
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名			設 置 者 名			学 校 名			学校調査番号			調 査 期 間			令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日										Ⅲ 結 果 点 数			
	青森県			弘前市			第二中学校			3596			調査者	職 名		一級建築士登録番号					氏 名					④ 構 造 耐 力	耐 力 度		
														技 師							金崎 範仁 ㊞								
														予備		一級建築士登録番号					氏 名								
														調査者		(株)小野構造設計					241724								小野 芳美 ㊞
																							⑧ 健 全 度						
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面 積		建物の経過年数					被 災 歴					補 修 歴					68 点					
	校舎		㊿		1+0		一階面積		建築 年月	昭和 54 年		長寿命 化年月		年 月	種 類		被 災 年		内 容		補 修 年		④ 立 地 条 件		2,846 点				
							78 m <sup>2</sup>			3 月		年 月			無し		年		無し		年								
							延べ面積			経過		44 年											経過				年 数		
							78 m <sup>2</sup>			年数		年 数											年 数						
																							0.93 点						

① 構   造   耐   力	階	方向	Qu/ΣW	F	Ai	Eoi	Isi	部材		鉛直荷重時			暴風時		応力比 f/σ ≤ 1.0		1981年以前の場合		α 評点	評点合計
										長期G+P		積雪時			鉛直荷 重時	暴風時				
										許容応力	作用応力	作用応力								
										f	σ	σ								
架 構 耐 力 評 価 α	1	桁 行 方 向 X	0.38	1.00	1.00	0.38	0.38	はり	中央	157	—	—	235	—	—	—	B α =min(a,1) × min(b,1)	f α = min(B α ,s α )	㊦ α =50× (min(Is,0.7) +1.3) × f α )	㊦
									両端	157	—	—	235	—	—	—				
									平均											
									柱	85	3.0	16.5	235	—	5.15	—				
									筋かい				—	—		—				
									二重枠内の最小値						a 1.00	b 1.00				
									1	張 間 方 向 Y	0.12	1.00	1.00	0.12	0.12	はり				
	両端	157	1.3	12.0	235	58.8	13.08	4.00												
	平均																			
	柱	157	11.9	88.2	235	370.1	1.78	0.63												
	筋かい				—	—		—												
	二重枠内の最小値						c 1.00	d 0.63												

全 健 度	① 経 年 変 化 T	経過年数 t		判別式(建築時からの経過年数)			経過年数 t <sub>2</sub>		判別式(長寿命化改良後の経過年数)			評 点		評点合計
		44 年		T=(40-t)/40 = 0.00			— 年		T=(30-t <sub>2</sub> )/40 = —			㊦ 0.00	㊧(㊦×25) 0.0 点	
	② 筋かいのたわみ L	桁行方向 有 無		張間方向 有 無		屋根面 有 無			最低値 L		評 点		㊨=(㊦+㊩+㊪+㊫+㊬+㊭) +㊮+㊯+㊰+㊱	
		目視によりたわみ無し		—		—			L= 1.00		㊰ 1.00	㊲(㊰×10) 10.0 点		
	③ 鉄 骨 腐 食 度 F	部材区分		断面欠損を伴う腐食 無		断面欠損を伴う腐食 (10%以上の減厚)		断面を貫通する腐食		最低値 F		評 点		㊳ 67.5 点
		主要構造材		1.0		0.5		0.0		F= 1.00		㊴ 1.00	㊵(㊴×10) 10.0 点	
		非主要構造材		1.0		0.5		0.0						
	④ 非構造部材等の危険度 W	危険な要因1 (0.8)		危険な要因2 (0.6)		危険な要因3 (0.5)		危険 要因 無し (1.0)	評価		評 点		㊶=㊳×min(㊷,㊸)	
		—		—		—			W= 1.00		㊹ 1.00	㊺(㊹×30) 30.0 点		
	⑤ 架構剛性性能 θ	階	層間変位 δ		階高h		θ = δ / h		θ の 最大値	判 別 式		評 点		㊻=㊳×min(㊼,㊽)
桁行 方向X			張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y	θ ≤ 1/200		1.0	㊾ 0.50	㊿(㊾×15) 7.5 点		
1		0.19	7.40	260.0	227.5	1/ 1368	1/ 31	1/ 31	1/200 < θ < 1/120	直線補間	0.50	7.5 点		
		1/120 ≤ θ		0.5										
		㊼=㊾×min(㊿,㋀)												
⑥ 不同沈下量 φ	階	相対沈下量 ε		スパンL		φ = ε / L		φ の 最大値	判 別 式		評 点		㋁ 68 点	
		桁行 方向X	張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y		φ ≤ 1/500	1.0	㋃ 1.00	㋄(㋃×10) 10.0 点		
	1	—	—	—	—	—	—	躯体にひび割れを伴う不同沈下が生じていない	1/500 < φ < 1/120	直線補間	1.00	10.0 点		
		1/120 ≤ φ		0.5										
⑦ 火 災 に よ る 疲 弊 度 S	程 度	構 造 体 変 質	非構造材 全 焼	非構造材 半 焼	煙害程度	当該階の 床面積 S <sub>0</sub>	被災率S S = S <sub>t</sub> /S <sub>0</sub>	判 別 式		評 点		㋅ 1.00 点		
	被災床面積	S <sub>1</sub> 0	S <sub>2</sub> 0	S <sub>3</sub> 0	S <sub>4</sub> 0	0	0	S=0	1.0	㋆ 1.00 点				
	評価後被災 面積 S <sub>t</sub>	S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00						0 < S < 1	直線補間					
		S=1		0.5										
	⑧ 地 震 等 に よ る 被 災 歴 E	被災歴なし 被災度区分軽微		被災度区分小破 補修工事済み		被災度区分中破 補修工事済み		被災度区分大破 補修工事済み		評 価			評 点	㋇ 1.00 点
1.0		0.95		0.9		0.8		1.00						

立地条件	① 地震地域係数		② 地 盤 種 別		③ 敷 地 条 件		④ 積 雪 寒 冷 地 域		⑤ 海 岸 からの 距 離		評 価	評 点
	四 種 地 域	1.0	一 種 地 盤	1.0	平 坦 地	1.0	そ の 他 地 域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	$C = \frac{①+②+③+④+⑤}{5}$ $= \frac{0.85+0.9+1.0+0.9+1.0}{5}$ $= 0.93$	◎ <div>0.93</div>
	三 種 地 域	0.9	二 種 地 盤	0.9	傾 斜 地	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9		
	二 種 地 域	0.85			崖 地 ( 3 m 未 満 )		一級積雪寒冷地域		海岸から5km以内			
	一 種 地 域	0.8	三 種 地 盤	0.8	崖 地 ( 3 m 以 上 )	0.8						

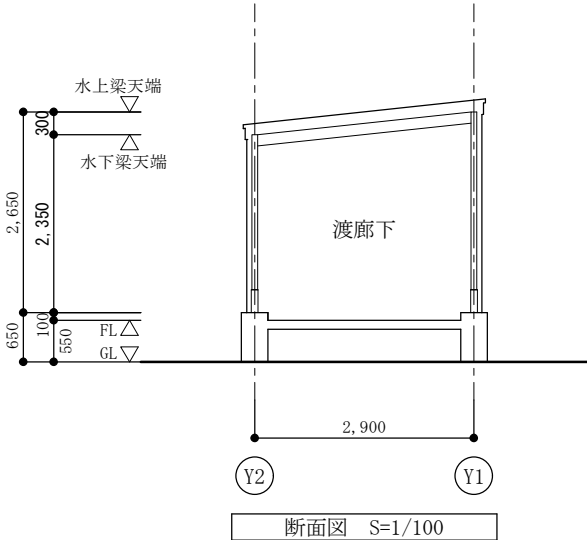
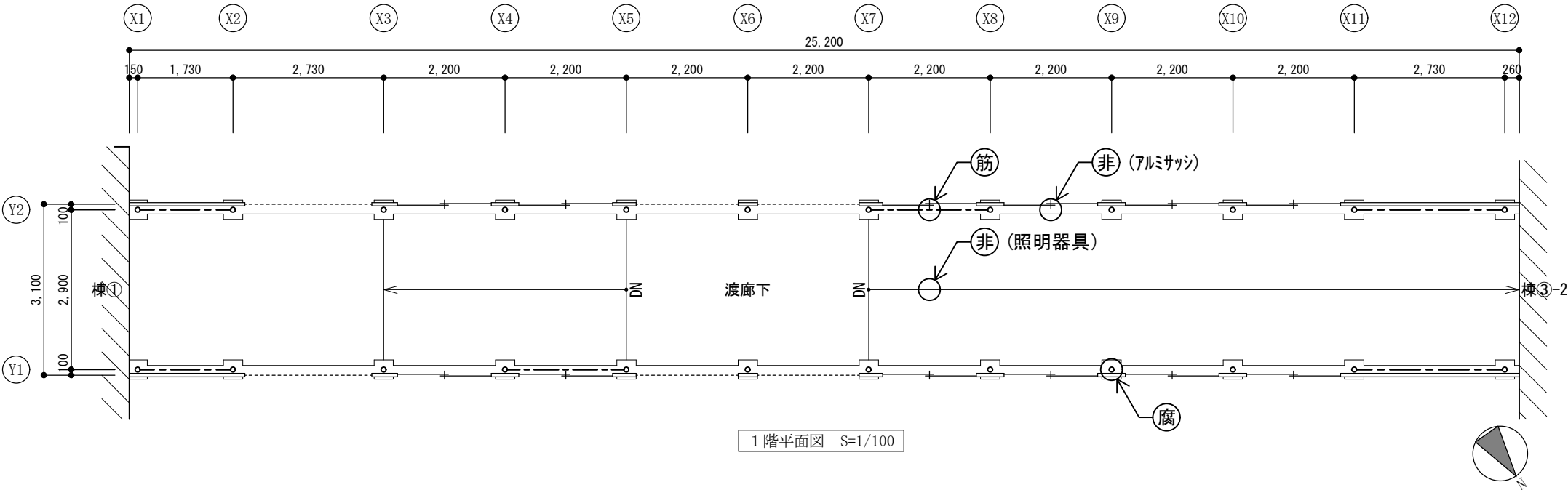


(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	構造耐力・健全度ともに老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- 筋 筋かいたわみ確認
- 腐 鉄骨腐食度
- 非 非構造部材の危険度
- 既存桁ブレース



棟⑫  
(渡廊下)  
建 築 年 : 昭和54年  
延べ床面積 : 78㎡

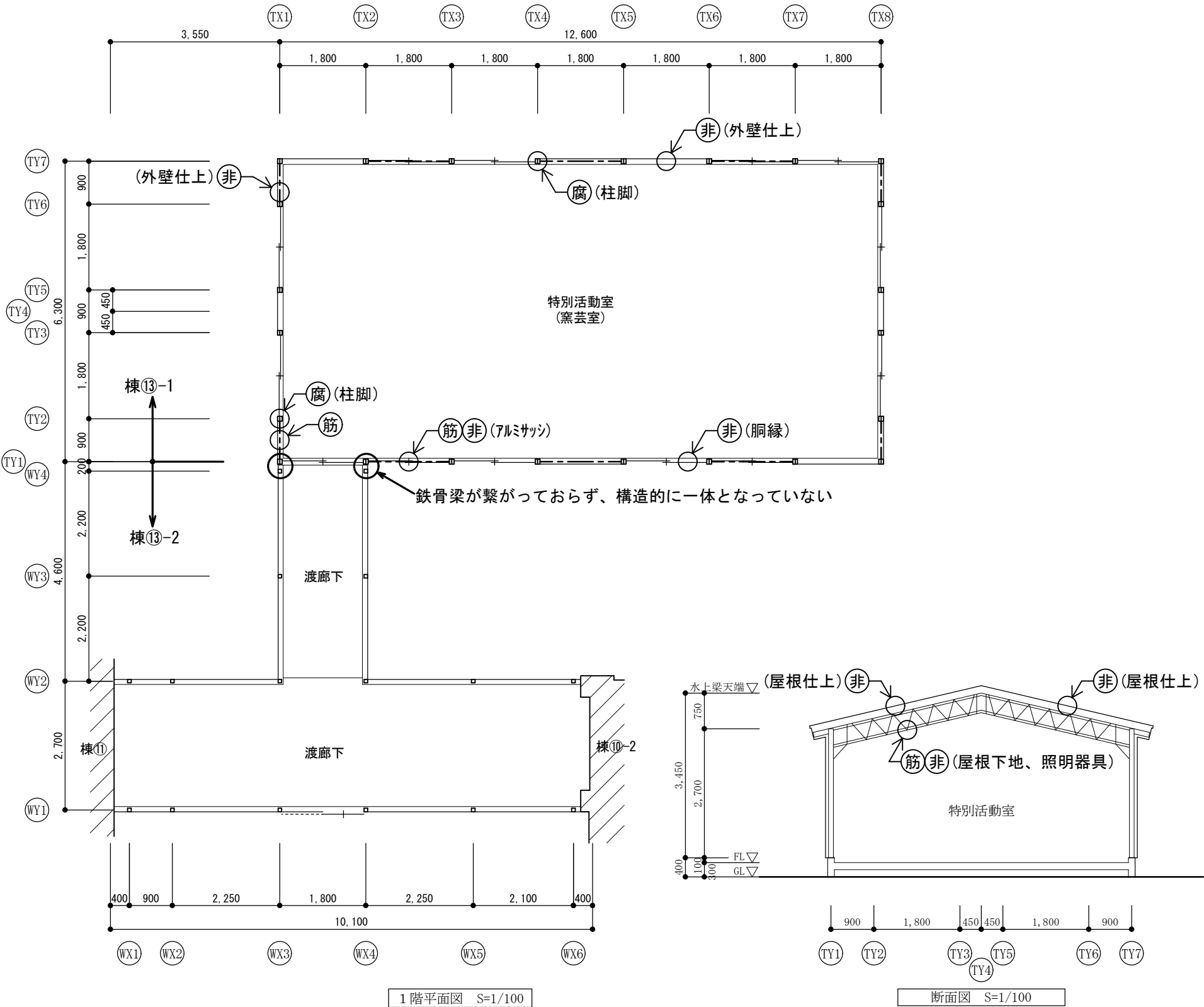
別表第2 (表面)鉄骨造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号		
													中学校		0101		
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果 点 数			
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度
										技 師				金崎 範仁 ㊞			
										予備 調査者	会社名		一級建築士登録番号		氏 名		
(株)小野構造設計		241724		小野 芳美 ㊞													
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号	階 数	面積	建物の経過年数				被 災 歴		補 修 歴		Ⅲ 結 果 点 数			
	校舎		㊿-1	1+0	一階面積	建築	昭和 54 年	長寿命	年	種 類	被 災 年	内 容	補 修 年	56 点	3,594 点		
					79 m <sup>2</sup>	年月	3 月	化年月	年 月	無し		無し					
					延べ面積	経過	44 年	経過	年								
					79 m <sup>2</sup>	年数		年数									
													0.93 点				

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	構造耐力・健全度ともに老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- 筋 筋かいたわみ確認
- 腐 鉄骨腐食度
- 非 非構造部材の危険度
- 既存桁ブレース



棟⑬－1  
（特別活動室棟）  
建 築 年 ： 昭和 5 4 年  
延べ床面積 ： 79㎡

## 鉄骨造の建物の耐力度調査票

別表第2 (表面)													鉄骨造の建物の耐力度調査票										Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号	
																							中学校		0101	
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名			設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日										Ⅲ 結 果 点 数				
	青森県			弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名		一級建築士登録番号				氏 名				④ 構 造 耐 力	耐 力 度				
											技 師						金崎 範仁 ㊞									
											予備調査者		会社名				一級建築士登録番号							氏 名		
										(株)小野構造設計		241724				小野 芳美 ㊞				⑤ 健 全 度		④×⑤×⑥				
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面 積		建物の経過年数				被 災 歴				補 修 歴				51 点		3,320 点			
	校舎		㊱-2		1+0		一階面積		建築年月	昭和 54 年 3 月	長寿命化年月	年 月	種 類		被 災 年	内 容		補 修 年	⑥ 立 地 条 件							
							36 m <sup>2</sup>						無し			無し			0.93 点							
							延べ面積																			
							36 m <sup>2</sup>		経過年数		44 年		経過年数		年		年		点							

① 構   造   耐   力	階	方向	Qu/ΣW	F	Ai	Eoi	Isi	部材		鉛直荷重時			暴風時		応力比 f/σ ≤ 1.0		1981年以前の場合		α 評点	評点合計
										長期G+P		積雪時								
										許容応力 f	作用応力 σ	作用応力 σ								
								架 構 耐 力 評 価 α	1	桁 行 方 向 X	0.09	1.00	1.00	0.09	0.09	はり				
両端	157	—	—	235	—	—	—													
平均																				
柱	99	3.4	23.0	235	—	4.30	—													
筋かい				—	—		—													
二重枠内の最小値						a 1.00	b 1.00													
1	張 間 方 向 Y	0.17	1.00	1.00	0.17	0.17	はり										中央	157	8.0	68.2
									両端	157	1.3	9.4	235	18.7	16.70	12.57				
									平均						9.50	9.03				
									柱	157	12.0	82.9	235	187.9	1.89	1.25				
									筋かい				—	—		—				
									二重枠内の最小値						c 1.00	d 1.00				

健康	①	経過年数 t		判別式(建築時からの経過年数)		経過年数 t <sub>2</sub>		判別式(長寿命化改良後の経過年数)		評 点		評点合計	
	経 年 変 化 T	44 年	T=(40-t)/40 = 0.00		— 年		T=(30-t <sub>2</sub> )/40 = —		㊦ 0.00	㊧(㊦×25) 0.0 点			
	②  筋かいのたわみ L	桁行方向 有 (無)	張間方向 有 (無)		屋根面 有 (無)		/	最低値 L	評 点				
		—		—		—		L= 1.00	㊨ 1.00	㊩(㊨×10) 10.0 点			
健全	③  鉄 骨 腐 食 度 F	部材区分	断面欠損を伴う腐食 無		断面欠損を伴う腐食 (10%以上の減厚)		断面を貫通する腐食		最低値 F	評 点			
		主要構造材	1.0		0.5		0.0		F= 0.50	㊪ 0.50	㊫(㊪×10) 5.0 点		
		非主要構造材	1.0		0.5		0.0						
健全	④  非構造部材等の危険度 W	危険な要因1 (0.8)		危険な要因2 (0.6)		危険な要因3 (0.5)		危険要因無し (1.0)	評価	評 点			
		—		母屋・外壁受材の腐食 屋根材の腐食		—			W= 0.60	㊬ 0.60	㊭(㊬×30) 18.0 点		
		健全	⑤  架 構 剛 性 性 能 θ	階	層間変位 δ		階高h		θ = δ / h		θ の 最大値	判 別 式	
桁行 方向X	張間 方向Y				桁行 方向X	張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y	θ ≤ 1/200	1.0		㊮ 0.50	㊯(㊮×15) 7.5 点
1	6.19			3.78	260.0	227.5	1/ 42	1/ 60	1/ 42	1/200 < θ < 1/120	直線補間	0.50	7.5 点
	1/120 ≤ θ			0.5									
健全	⑥  不 同 沈 下 量 φ	階	相対沈下量 ε		スパンL		φ = ε / L		φ の 最大値	判 別 式		評 点	
			桁行 方向X	張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y	桁行 方向X	張間 方向Y		φ ≤ 1/500	1.0	㊰ 1.00	㊱(㊰×10) 10.0 点
		1	—	—	—	—	—	—	躯体にひび割れを伴う不同沈下が生じていない	1/500 < φ < 1/120	直線補間	1.00	10.0 点
			1/120 ≤ φ		0.5								
健全	⑦  火 災 に よ る 疲 弊 度 S	程 度	構 造 体 変 質	非構造材 全 焼	非構造材 半 焼	煙害程度	当該階の床面積 S <sub>0</sub>	被災率S S = S <sub>t</sub> /S <sub>0</sub>	判 別 式		評 点		
		被災床面積	S <sub>1</sub> 0	S <sub>2</sub> 0	S <sub>3</sub> 0	S <sub>4</sub> 0	0	0	S=0	1.0	㊲ 1.00 点		
		評価後被災面積 S <sub>t</sub>	S <sub>t</sub> =S <sub>1</sub> +S <sub>2</sub> ×0.75+S <sub>3</sub> ×0.5+S <sub>4</sub> ×0.25 = 0.00						0 < S < 1	直線補間			
									S=1	0.5			
健全	⑧  地 震 等 に よ る 被 災 歴 E	被災歴なし 被災度区分軽微		被災度区分小破 補修工事済み		被災度区分中破 補修工事済み		被災度区分大破 補修工事済み		評 価	評 点		
		1.0		0.95		0.9		0.8		1.00	1.00 点		

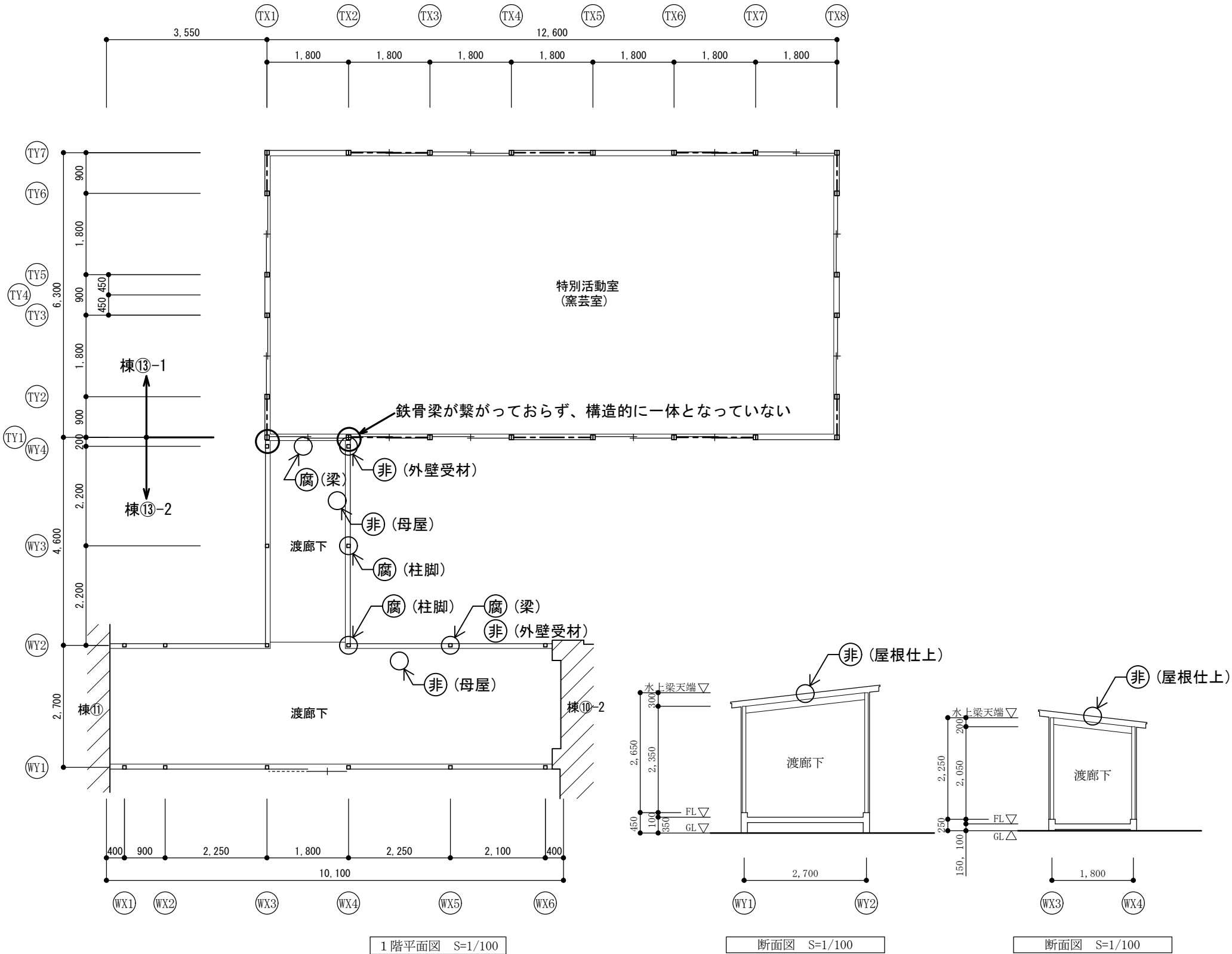
◎	① 地震地域係数		② 地盤種別		③ 敷地条件		④ 積雪寒冷地域		⑤ 海岸からの距離		評価	評点
立地条件	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	$\text{◎} = \frac{\text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④} + \text{⑤}}{5}$ $= \frac{0.85 + 0.9 + 1.0 + 0.9 + 1.0}{5}$ $= \mathbf{0.93}$	◎ <b>0.93</b>
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	傾斜地 崖地(3m未満)	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9		
	二種地域	0.85										
	一種地域	0.8	三種地盤	0.8	崖地(3m以上)	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8		

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	構造耐力・健全度ともに老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- 筋 筋かいたわみ確認
  - 腐 鉄骨腐食度
  - 非 非構造部材の危険度
- 桁ブレース無し



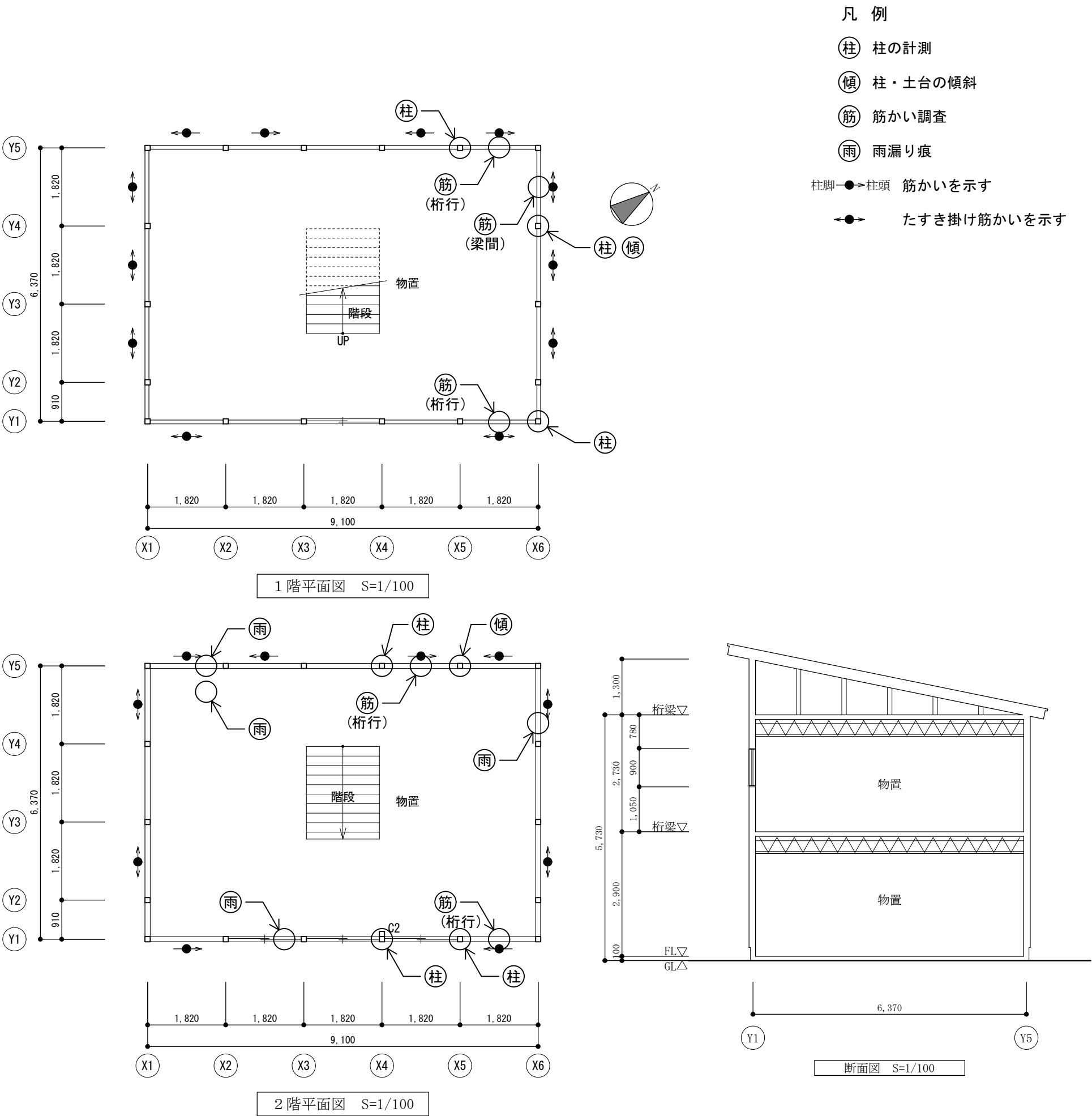
棟⑬-2  
(渡廊下)  
建 築 年 : 昭和54年  
延べ床面積 : 36㎡





(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	構造耐力・健全度ともに老朽化が目立つ建物である。	

- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。



棟⑩  
(物置)  
建 築 年 : 昭和60年  
延べ床面積 : 116㎡

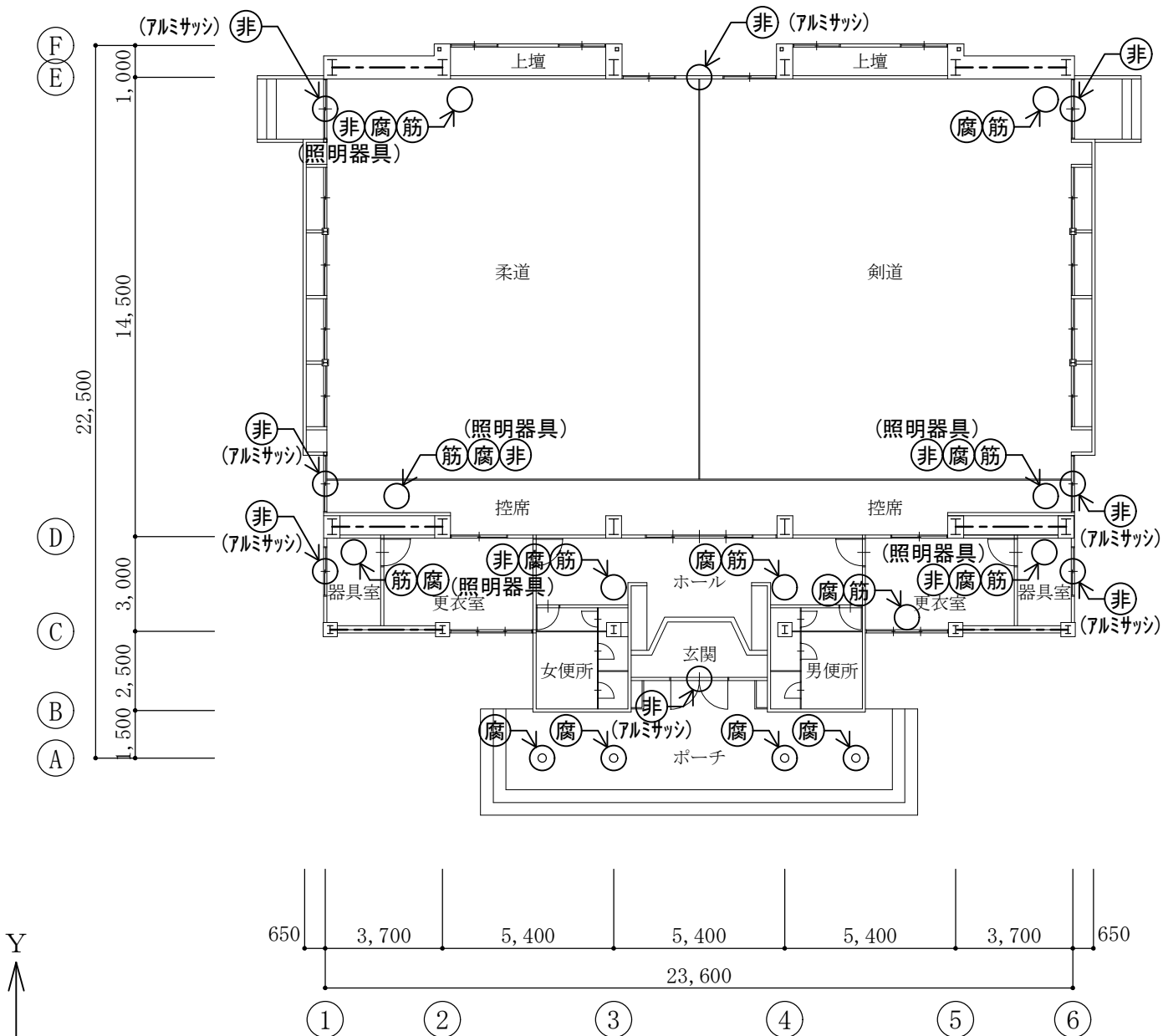
別表第2 (表面)鉄骨造の建物の耐力度調査票													Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整 理 番 号			
													中学校		0101			
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名		設 置 者 名		学 校 名		学校調査番号		調 査 期 間		令和 4 年 10 月 8 日 ～ 令和 5 年 3 月 24 日			Ⅲ 結 果		点 数		
	青森県		弘前市		第二中学校		3596		調査者	職 名	一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力	耐 力 度		
									技 師			金崎 範仁 ㊞						
									予備 調査者	会社名	一級建築士登録番号		氏 名		④ 構 造 耐 力 100 点			⑤ 健 全 度
(株)小野構造設計			241724		小野 芳美 ㊞													
Ⅱ 調 査 建 物	建 物 区 分		棟 番 号		階 数		面積		建物の経過年数			被 災 歴		補 修 歴		82 点		
	屋内運動場		㊹		1+0		一階面積	建築	平成 6 年	長寿命	年	種 類	被 災 年	内 容	補 修 年	7,626 点		
							450 m <sup>2</sup>	年月	3 月	化年月								
							延べ面積	経過	29 年	経過								年
							450 m <sup>2</sup>	年数		年数								
									無し		無し		0.93 点					

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	新耐震設計の建物で構造耐力は優れており、健全度も大きな低減はない建物である。	

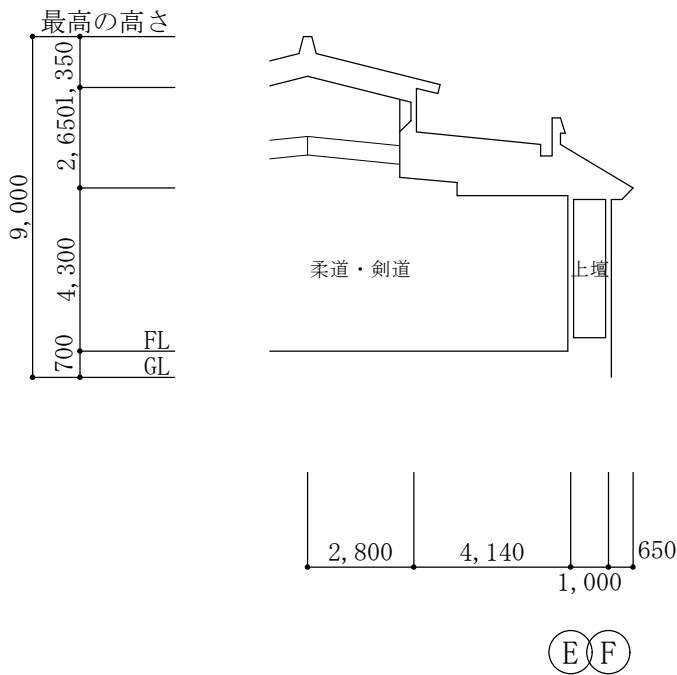
1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
3. 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- 筋 筋かいたわみ確認
- 腐 鉄骨腐食度
- 非 非構造部材の危険度
- 既存桁ブレース



1 階平面図 S=1/200



断面図 S=1/200

棟②⑩  
(武道場)  
建 築 年 : 平成 6 年  
延べ床面積 : 450㎡

別表第2  
(表面)

鉄骨造の建物の耐力度調査票

I

調査学校

都道府県名

設置者名

学校名

学校調査番号

調査期間

令和 4 年 10 月 8 日 ~ 令和 5 年 3 月 24 日

青森県

弘前市

第二中学校

3596

調査者

職名

技師

一級建築士登録番号

氏名

金崎 範仁

印

予備調査者

会社名

一級建築士登録番号

氏名

小野 芳美

印

(株)小野構造設計

241724

III

結果

点数

④

構造耐力

100

点

⑤

健全度

84

点

⑥

立地条件

0.93

点

7,812

点

II

調査建物

建物区分

棟番号

階数

面積

建物の経過年数

被災歴

補修歴

部室

㊴

1+0

一階面積

365

m<sup>2</sup>

建築年月

平成 9 年 3 月

長寿命化年月

年月

延べ面積

365

m<sup>2</sup>

経過年数

26 年

経過年数

年

種類

被災年

内容

補修年

無し

年

無し

年

⑦

構造耐力

階

方向

Qu/ΣW

F

Ai

Eoi

Isi

部材

鉛直荷重時

暴風時

応力比  
f/σ ≤ 1.0

1981年以前の場合  
新耐震設計基準の建物で、構造部材に特に欠陥も無いので、fαは満点(1.0)とする。

α 評点

評点合計

1

桁行方向 X

—

—

—

—

0.70

はり

中央

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

両端

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

平均

柱

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

筋かい

—

—

二重枠内の最小値

a

—

b

—

1

張間方向 Y

—

—

—

—

0.70

はり

中央

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

両端

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

平均

柱

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

筋かい

—

—

二重枠内の最小値

c

—

d

—

⑧

①

経年変化 T

経過年数 t

判別式(建築時から経過年数)

経過年数 t<sub>2</sub>

判別式(長寿命化改良後の経過年数)

評点

評点合計

26

年

T=(40-t)/40 = 0.35

—

年

T=(30-t<sub>2</sub>)/40 = —

⑨

0.35

⑩ (⑨×25)

8.8

点

②

筋かいのたわみ L

桁行方向

有

⑪

張間方向

有

⑫

屋根面

⑬

無

最低値 L

評点

—

—

目視によりたわみ無し

L= 1.00

⑭

1.00

⑮ (⑭×10)

10.0

点

③

鉄骨腐食度 F

部材区分

断面欠損を伴う腐食

無

断面欠損を伴う腐食

(10%以上の減厚)

断面を貫通する腐食

最低値 F

評点

主要構造材

1.0

0.5

0.0

F= 1.00

⑯

1.00

⑰ (⑯×10)

10.0

点

非主要構造材

1.0

0.5

0.0

⑱

1.00

⑲ (⑱×30)

30.0

点

④

非構造部材等の危険度 W

危険な要因1 (0.8)

危険な要因2 (0.6)

危険な要因3 (0.5)

危険要因無し (1.0)

評価

評点

—

—

—

W= 1.00

⑳

1.00

㉑ (㉑×30)

30.0

点

⑤

架構剛性性能 θ

階

層間変位 δ

階高h

θ = δ / h

θ の最大値

判別式

評点

1

桁行方向 X

張間方向 Y

桁行方向 X

張間方向 Y

桁行方向 X

張間方向 Y

—

1/200 < θ < 1/120

直線補間

⑳

1.00

㉒ (㉒×15)

15.0

点

新耐震設計基準以降の建物なので 1.0 とする

1/120 ≤ θ

0.5

㉓

1.00

㉓ (㉓×10)

10.0

点

⑥

不同沈下量 φ

階

相対沈下量 ε

スパンL

φ = ε / L

φ の最大値

判別式

評点

1

桁行方向 X

張間方向 Y

桁行方向 X

張間方向 Y

桁行方向 X

張間方向 Y

—

φ ≤ 1/500

1.0

㉔

1.00

㉕ (㉔×10)

10.0

点

躯体にひび割れを伴う不同沈下が生じていない

1/500 < φ < 1/120

直線補間

㉖

1.00

㉖ (㉖×10)

10.0

点

⑦

火災による疲弊度 S

程度

構造体変質

非構造材全焼

非構造材半焼

煙害程度

当該階の床面積 S<sub>0</sub>

被災率 S = S<sub>t</sub>/S<sub>0</sub>

判別式

評点

被災床面積

S<sub>1</sub>

0

S<sub>2</sub>

0

S<sub>3</sub>

0

S<sub>4</sub>

0

0

0

S=0

1.0

㉗

1.00

点

評価後被災面積 S<sub>t</sub>

S<sub>t</sub>=S<sub>1</sub>+S<sub>2</sub>×0.75+S<sub>3</sub>×0.5+S<sub>4</sub>×0.25 = 0.00

0

0

0 < S < 1

直線補間

㉘

1.00

点

S=1

0.5

㉙

1.00

点

⑧

地震等による被災歴 E

被災歴なし

被災度区分軽微

被災度区分小破補修工事済み

被災度区分中破補修工事済み

被災度区分大破補修工事済み

評価

評点

1.0

0.95

0.9

0.8

1.00

㉚

1.00

点

⑨

立地条件

① 地震地域係数

② 地盤種別

③ 敷地条件

④ 積雪寒冷地域

⑤ 海岸からの距離

評価

評点

四種地域

1.0

一種地盤

1.0

平坦地

1.0

その他地域

1.0

海岸から8kmを超える

1.0

㉛ = ①+②+③+④+⑤

5

0.85+0.9+1.0+0.9+1.0

5

0.93

三種地域

0.9

二種地盤

0.9

傾斜地 (3m未満)

0.9

二級積雪寒冷地域

0.9

海岸から8km以内

0.9

㉜ =

5

0.93

二種地域

0.85

三種地盤

0.8

崖地 (3m以上)

0.8

一級積雪寒冷地域

0.8

海岸から5km以内

0.8

㉝ =

0.93

一種地域

0.8

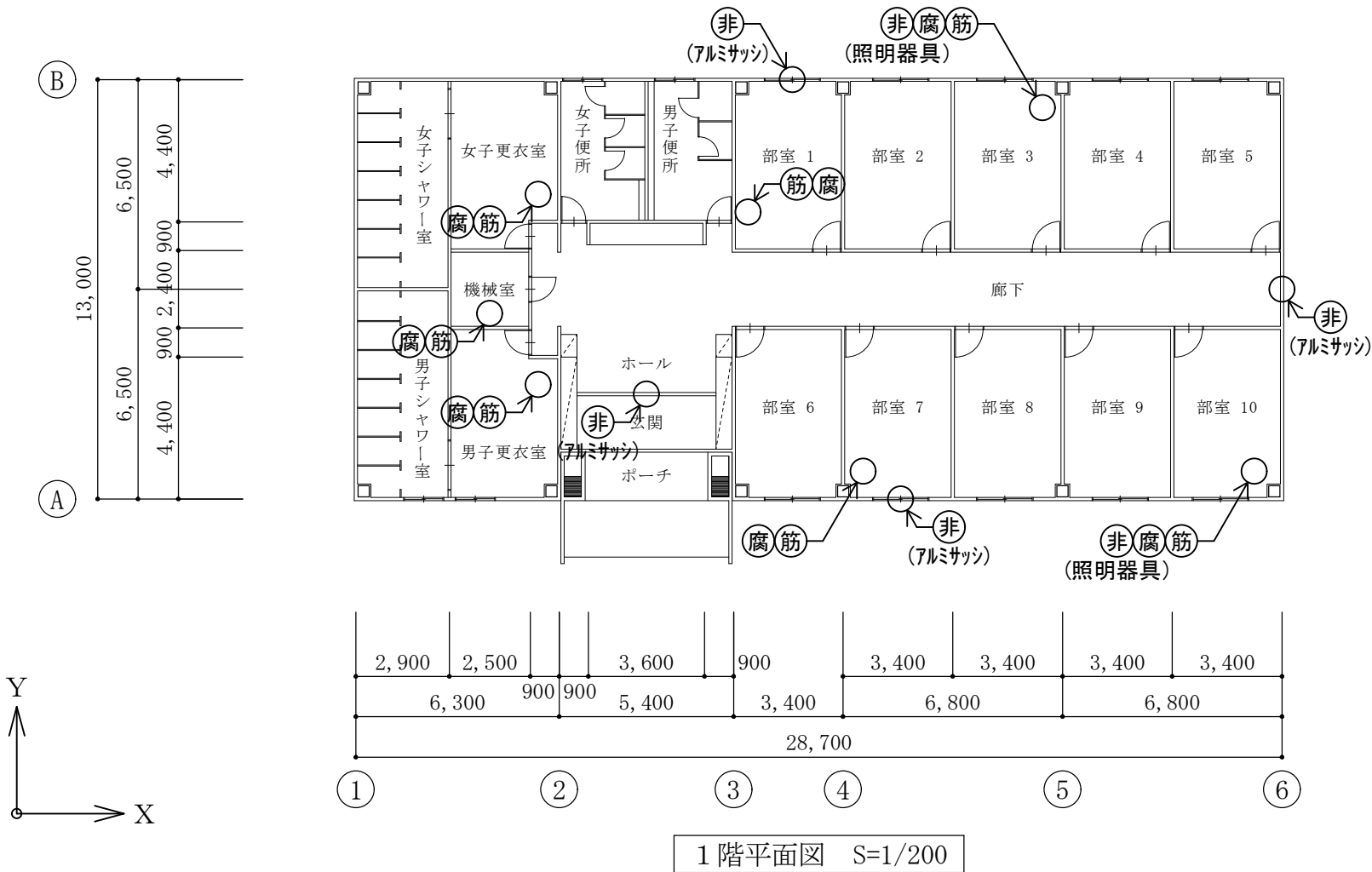
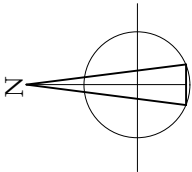
0.93

(裏面)	学校名	第二中学校
	調査者の意見	
	新耐震設計の建物で構造耐力は優れており、健全度も大きな低減はない建物である。	

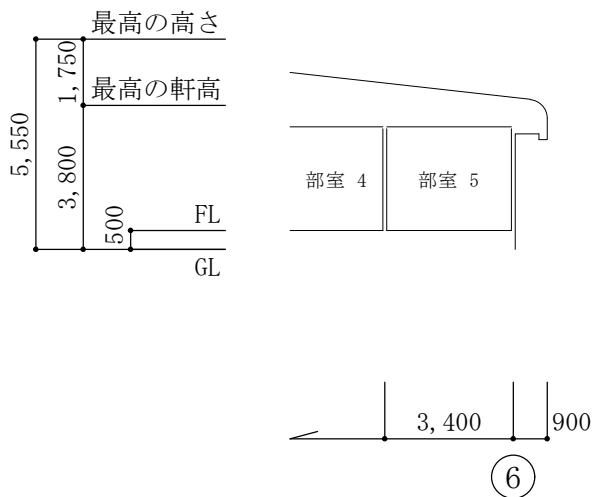
- 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
- 寸法線と寸法（単位メートル）を記入する。
- 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
- 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

凡 例

- 筋 筋かいたわみ確認
- 腐 鉄骨腐食度
- 非 非構造部材の危険度



1 階平面図 S=1/200



断面図 S=1/200

棟 ②①  
(部室)  
建 築 年 : 平成 9 年  
延べ床面積 : 365㎡